

第3期登別市地域福祉実践計画「きずな」

校区きずな計画

4年目（2019年度）評価書

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会・きずな推進委員会

1. はじめに

- 第3期登別市地域福祉実践計画「きずな」における校区きずな計画は、8小学校区ごとに重点項目別の評価を毎年度作成することとしています。
- 2019年度における校区ごとの取り組み状況について、校区きずな推進委員会内で評価を行いました。
- 2及び3に掲げる評価指標に基づき点数化を行い、レーダーチャートとして図式化を行いました。
- 掲載しているきずな推進委員の名簿については、2020年3月31日現在の状況としています。

2. 総合評価の指標について

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	・校区の実態を確認することができたか 例)住民座談会等で校区の課題などを確認できた。		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 4年目を振り返り、 協議のポイントを評価指標ごとに 箇条書きで記載 </div>
②知る (学ぶ)	・知る、学ぶ機会を設けることができたか 例)住民座談会等で学ぶ機会を設けることができた。		
③つながる	・関係する団体等とどの程度つながることができたか 例)関係団体と連携して取り組むことができた。		
④伝える	・どのくらいきずなを伝えることができたか 例)住民等に取り組み内容等を伝えることができた。		
⑤高める	・地域をよりよくすることにつながったか 例)取り組みを実施して機運の高まりを感じられた。		

3. 評価点数の内容について

評価点数	内容
1	計画されていたが取り組めなかった
2	一部の取り組みしかできなかった
3	計画どおり取り組むことができた
4	取り組みができ、一定の成果があった

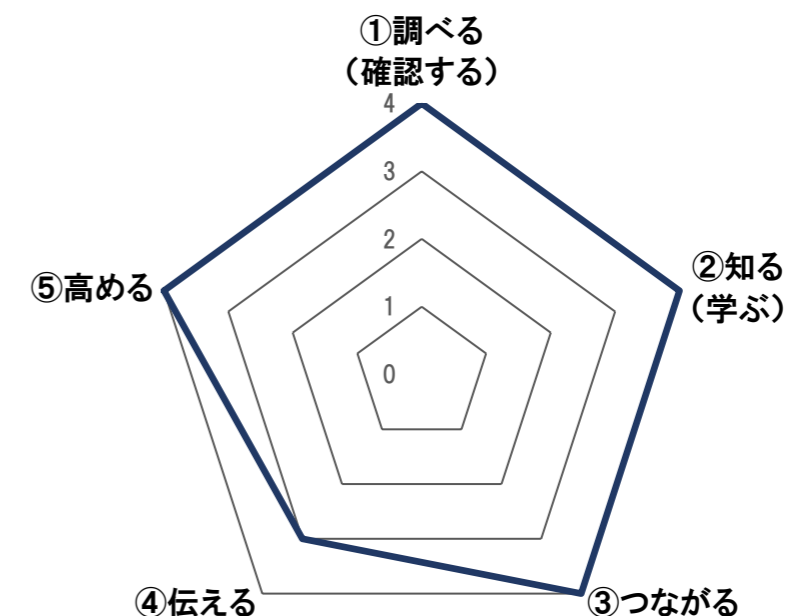
4. 目次

(1)登別小学校区…… 2ページ	(5)青葉小学校区……21ページ
(2)幌別東小学校区… 7ページ	(6)富岸小学校区……26ページ
(3)幌別小学校区……11ページ	(7)若草小学校区……31ページ
(4)幌別西小学校区…16ページ	(8)鷺別小学校区……36ページ

登別小学校区

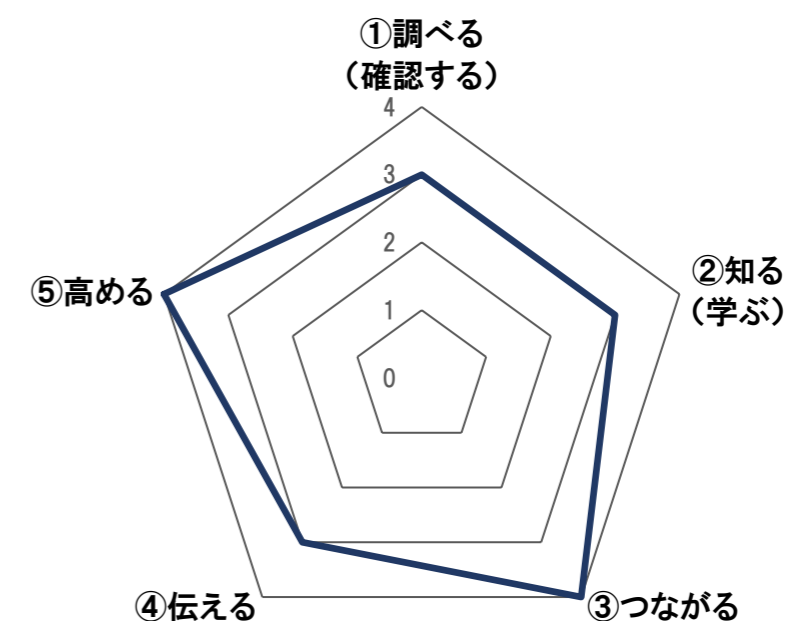
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	年4回の校区委員会の開催により、校区活動の方向性を細やかに確認しながら今後に向けた検討を図ることができた。	4	校区活動の方向性を確認し合い、今後も活動実施を図っていく。
②知る (学ぶ)	温泉地区の高齢世帯へ買い物に関するヒアリングを行い、地域の実情を知ることができた。	4	地域の実情把握を行いながら、モデル事業の実施にも役立てていく。
③つながる	買物支援のモデル事業実施に向け、関係機関も交えて話し合いの場を持つことができた。	4	モデル事業の実施に向け、より関係機関との連携・協議を図っていく。
④伝える	今後も校区きずな活動の取り組みや方向性を広く地域に伝えていく必要がある。	3	地域住民や関係機関に広くきずな活動の実情や目的を伝えていく。
⑤高める	買物支援モデル事業の実施に向け、具体的な話し合いを持つことができ、校区委員会としての機運が高まった。	4	より良い校区活動の推進に向け、今後も検討を重ねていく。



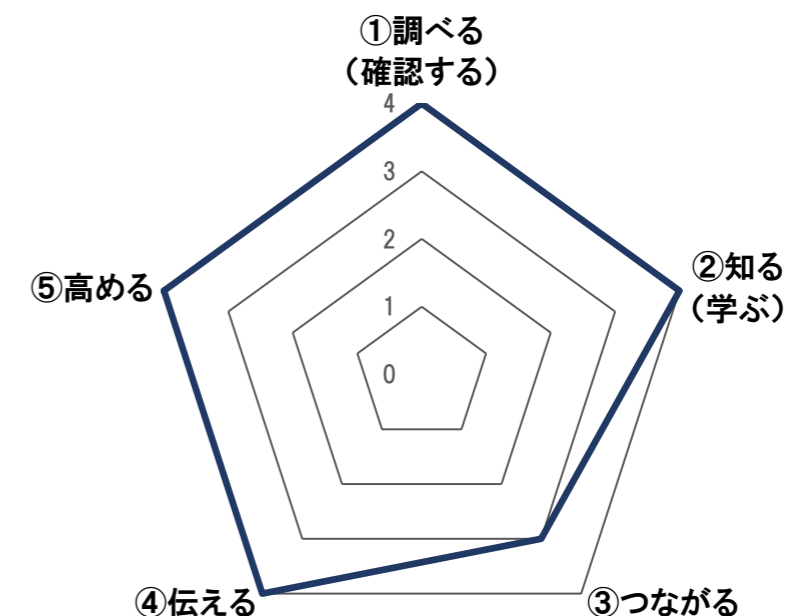
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	小地域ネットワーク活動は校区内14町内会で取り組まれている。	3	それぞれの町内会によって地域特性が異なるが、必要に応じ活用できるよう働き掛けていく。
②知る (学ぶ)	日頃の実践を通し、学びを深めることができた。	3	より良い活動推進に向けた学びの機会を設けていく。
③つながる	小地域ネットワーク活動や、各町内会での訪問・見守り活動によって、地域につながりが生まれている。	4	今後も推進していく。
④伝える	日頃の実践を通し、きずなを伝えることができた。	3	今後も必要な世帯で活用できるよう伝えていく。
⑤高める	小地域ネットワーク活動の推進により、日頃からの備えや見守り体制の強化を図ることができた。	4	今後も継続していく。



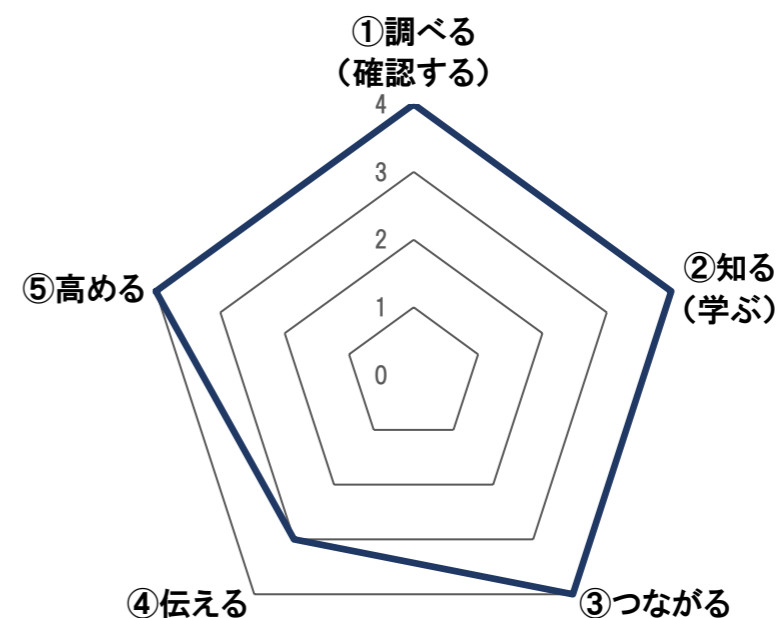
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会の推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	安定したサロン活動が実施されている。会食会も14町内会で実施され、地域の実情把握の場となった。	4	今後も活動を継続しつつ、より充実した実施を目指す。
②知る (学ぶ)	サロンサポーター連絡会等の実施により、サロン運営者が学びを深める機会を設けることができ、より良いサロン活動展開につながった。	4	今後も活動を継続しつつ、より充実した実施を目指す。
③つながる	地域包括支援センター等専門職の参加もあり、関係機関とのつながりが生まれている。	3	より良い活動展開のため、今後も関係機関との連携を図っていく。
④伝える	会食会では、共同募金配分金による助成であることを周知し、地域の居場所づくりやつながりづくりの必要性も伝えることができた。	4	今後も周知を図っていく。
⑤高める	サロンや会食会等の地域の居場所の必要性が認知され、地域に定着してきている。	4	今後も活動を継続しつつ、より充実した実施を目指す。



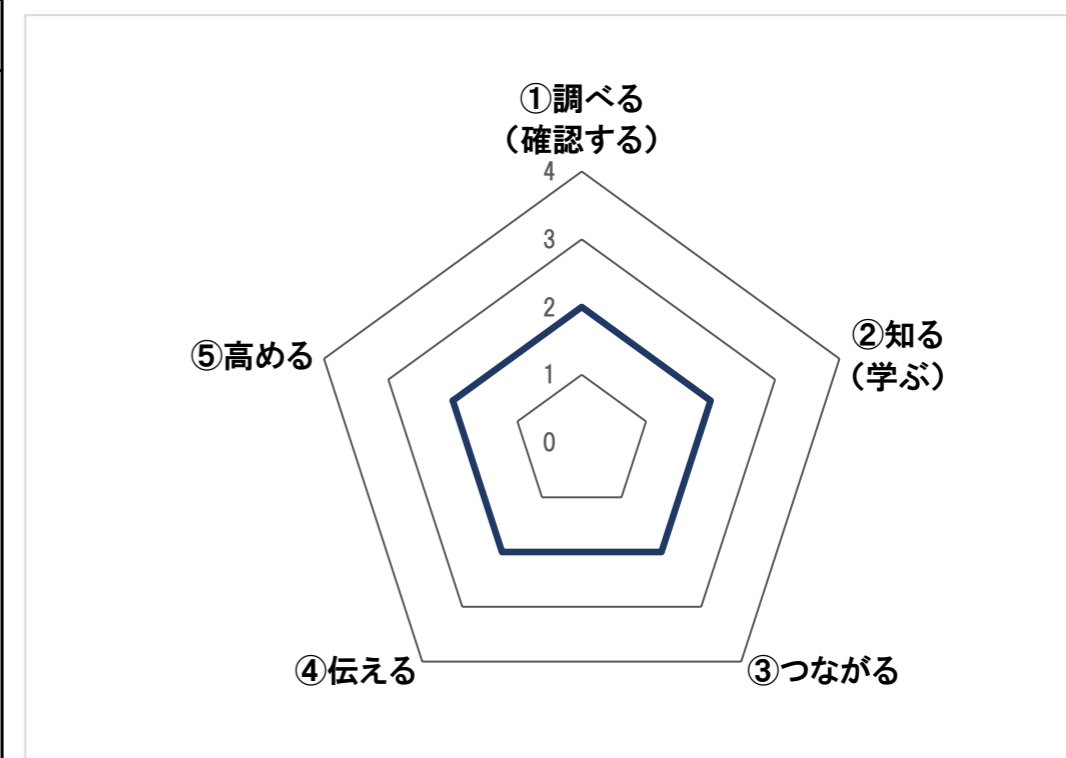
生活環境の整備(空家の有効活用、除雪やゴミ出し等ちょっとしたことの支援)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	鍵預かりサービス事業が実施できた。(利用登録者数5名、事業協力員51名)生活支援の部分では、買い物支援事業実施に向け検討を進めることができた。	4	鍵預かりサービス事業は引き続き継続し、買い物支援のモデル事業実施に向け検討を進める。
②知る (学ぶ)	温泉地区連のご協力の元、高齢世帯へ買い物に関するヒアリングを行い、地域の実情を把握することができた。	4	地域の実情に合う事業展開を目指していく。
③つながる	緑風園や登別商店会とも意見交換や事業検討の機会を設けることができた。	4	モデル事業の実施に向け、より関係機関との連携・協議を図っていく。
④伝える	買い物支援のモデル事業実施に向け、説明会等の機会を通し今後校区全体に趣旨を伝えていく必要がある。	3	モデル事業実施に向け、住民や関係機関にも広く実施の趣旨やきずな活動の実情を伝えていく。
⑤高める	買い物支援のモデル事業実施に向け、具体的な検討を進めることができ、校区内での機運を高めることができた。	4	モデル事業実施に向け校区全体で一丸となり進めていく。



人材育成(お茶の間会議の実施)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となったが、生徒が福祉に関心を持ち自分の地域について考える機会となっている。	2	生徒達が福祉の視点に触れるきっかけとなり、また、地域住民にとっても若い世代と関わる貴重な機会となっている。 学校側からも実施に理解と賛同をもらい、連携して行っていることは登別小学校区の特色であると言える。 今後も地域が豊かになる多世代の学びと交流の機会として実施する。
②知る (学ぶ)	多世代が集い自分の暮らす地域について改めて知ることのできる機会となっている。	2	
③つながる	登別中学校にも実施の意図に理解をもらうことができおり、学校との関係性構築の機会となっている。	2	
④伝える	校区の地域福祉活動について、同じ住民の立場から伝えることのできる機会となっている。	2	
⑤高める	参加住民も生徒達も互いの考えや発想に触れ、高め合うことのできる機会になっている。	2	



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	田畑 恒義
サブリーダー	桶屋 純一
サブリーダー	伊藤 芳雄
きずな推進委員	日野 安信
きずな推進委員	中川 信市

きずな推進委員	畠山 基子
きずな推進委員	吉岡 政美
きずな推進委員	成田 光男
きずな推進委員	田代 健二
きずな推進委員	勝間 広靖

きずな推進委員	須賀 武郎
きずな推進委員	飯島 武
きずな推進委員	和田 卓士
きずな推進委員	太田 憲明

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
5月30日	第1回登別小学校区きずな推進委員会	7名	1)昨年度の校区きずな計画評価について 2)今後の予定について 3)その他
6月13日	第2回登別小学校区きずな推進委員会	6名	1)昨年度の校区きずな計画の評価案について 2)今年度の校区きずな計画(3期4年目)の実施内容について
9月17日	第3回登別小学校区きずな推進委員会	6名	1)買い物支援の事業実施に向けた検討 2)その他
1月30日	第4回登別小学校区きずな推進委員会	10名	1)買い物に関するアンケート結果の共有 2)買い物支援の事業実施に向けた検討 3)お茶の間会議in登別中学校(登別小学校区住民座談会)について
3月16日	お茶の間会議in登別中学校	—	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

登別温泉地区連合町内会	中登別町内会
登別東町一町会	登別東町2町会
登別東町第三町会	登別東町第4町会
登別東町第五町会	登別本町会
登別本町2町会	登別東町団地町内会

実施率 82.4% (14 / 17)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあい・いきいきサロン

みどり会	登別東町2町会いきいきサロン
登別東町第三町会ふれあいサロン	登別東町第5町会ふれあいサロン
ふれあいサロン花園	

ふれあい会食会

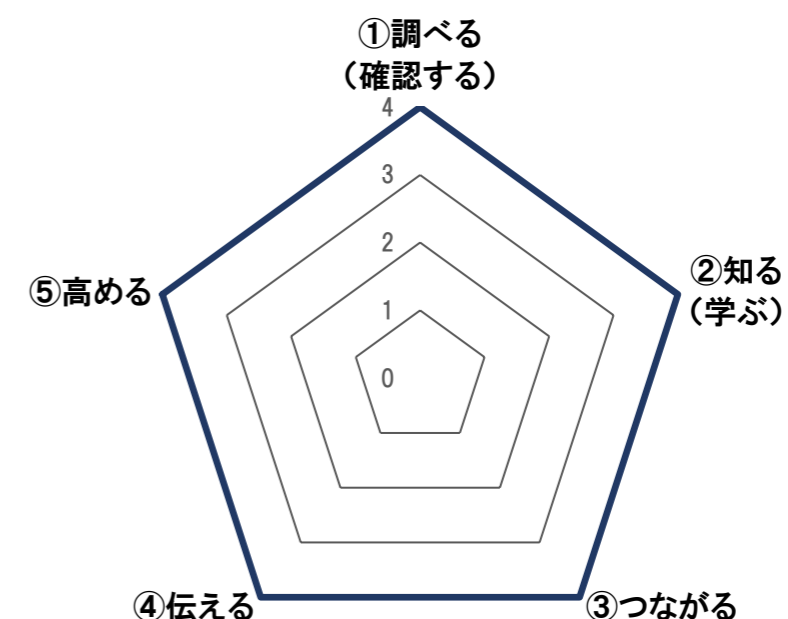
登別温泉地区連合町内会	新登別町内会
中登別町内会	登別東町一町会
登別東町2町会	登別東町第三町会
登別東町第4町会	登別東町第五町会
登別本町会	登別本町2町会

実施率 82.4% (14 / 17)

幌別東小学校区

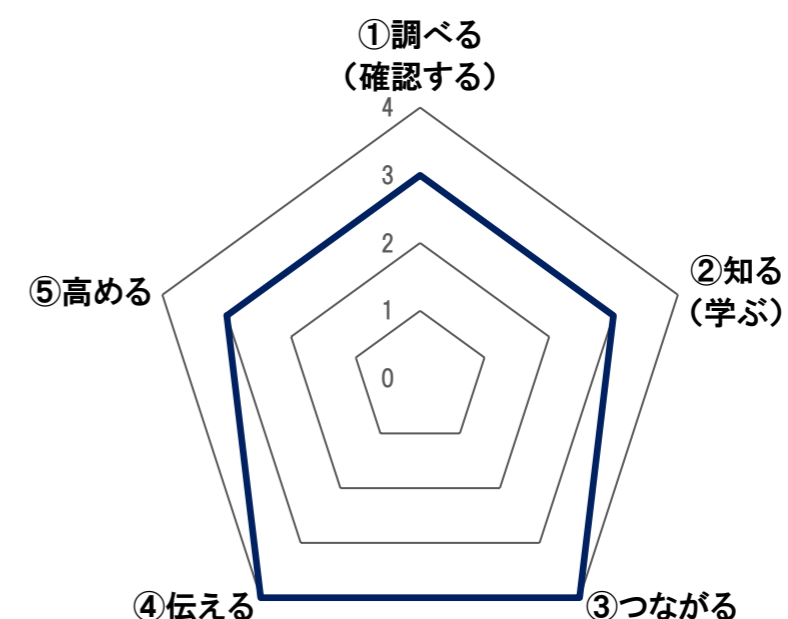
校区活動(校区きずな推進委員会、住民福祉座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	幌別鉄南地区連合町内会(8単位町内会)の会議の際に、地域福祉について話し合いを行ってきた。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	日頃より幌別鉄南地区連合町内会事務局で、8単位町内会の情報交換を行っている。	4	継続して実施する。
③つながる	町内会の各種行事において地域のきずなが深まってきている。	4	継続して実施する。
④伝える	幌別鉄南地区連合町内会の活動を通して、地域での人と人とのつながりの大切さを伝えてきた。	4	継続して実施する。
⑤高める	各種行事において、きずなの機運を高めることが出来た。	4	継続して実施する。



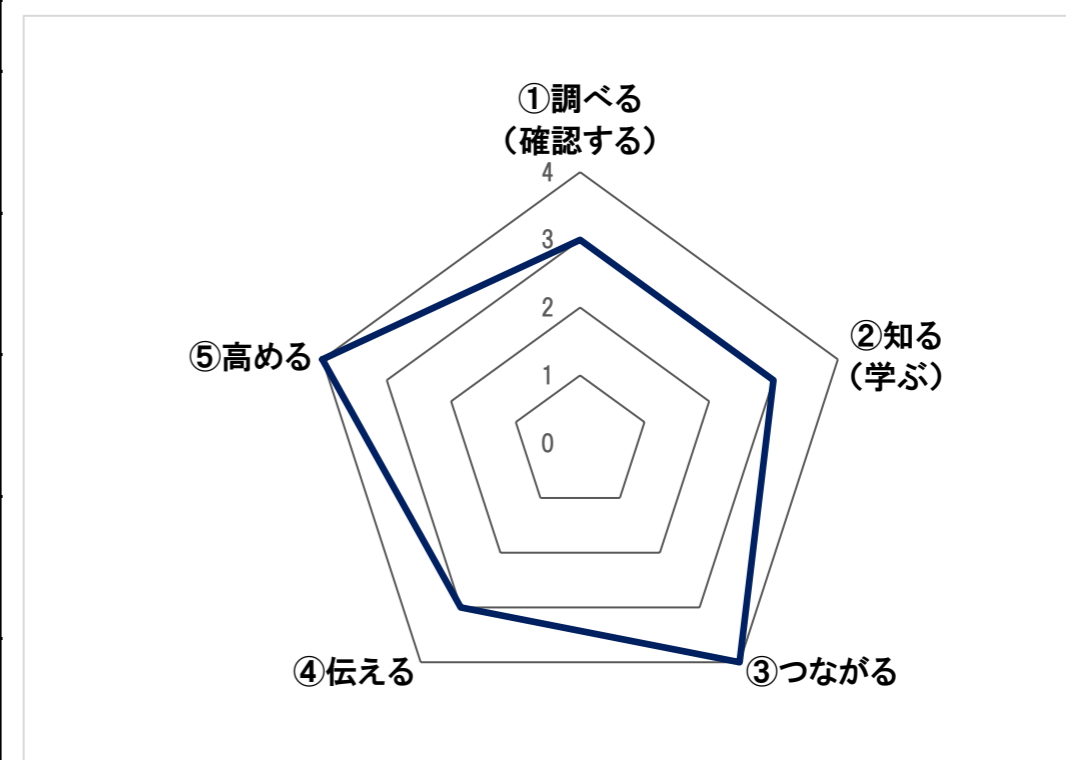
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実、防災・防犯活動の推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	各町内会では、きずな安心キットの配付を通じて地域の状況を確認することが出来た。	3	きずな安心キットの配付を継続して行いながら、更新や訪問等で逐次地域の状況を確認する。
②知る (学ぶ)	きずな安心キットを配付した方との日頃の声かけ・見守りにより健康状態や日常生活での悩み等について地域で把握が出来ている。	3	継続して実施する。
③つながる	幌別鉄南地区連合町内会(8単位町内会)主催の各種行事や緊急連絡網の整備等により、地域内のきずなも生まれている。	4	つながりを強化し、いざという時の対応につなげる。
④伝える	きずな安心キットの配付や避難訓練等の取り組みにより、自助・共助の必要性を伝えている。	4	継続して実施する。
⑤高める	日頃からの「向こう三軒両隣」の考え方を浸透していき、地域で支え合い・助け合いの活動を進めてきた。	3	きずな安心キット配付後の要支援者へのフォローアップを強化する。



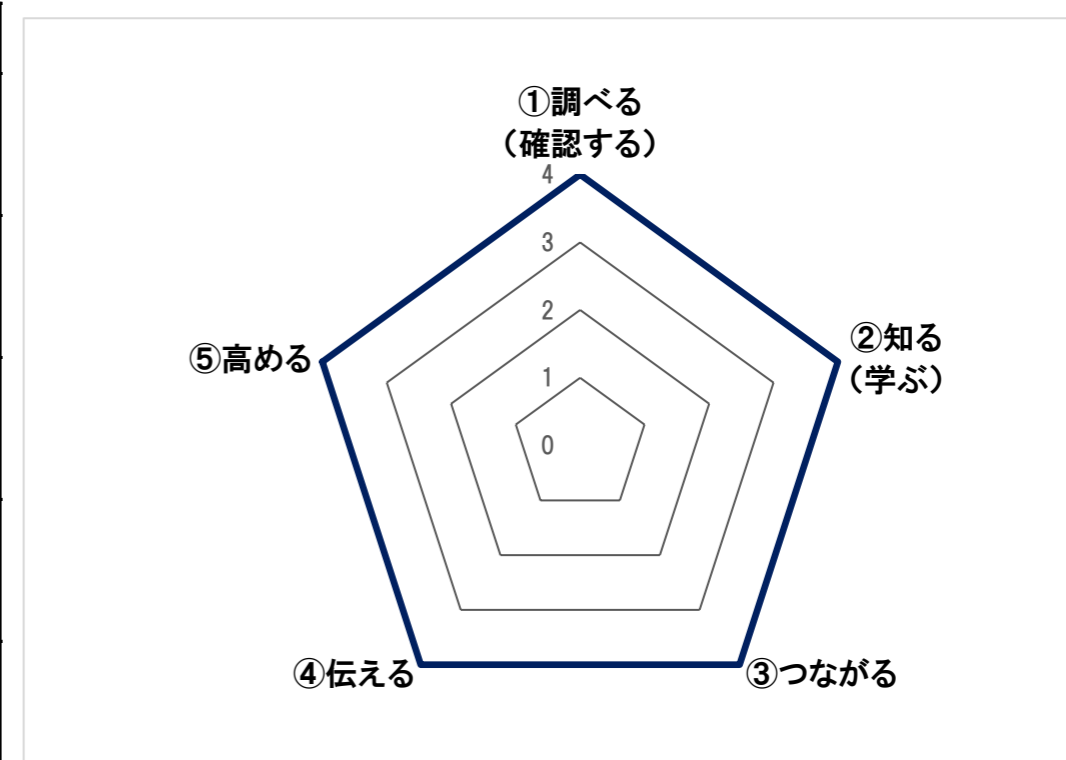
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロンの推進、ゆめみ～るとの連携)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	地域の福祉の現状を各单位町内会において行事を通して確認している。	3	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	地域の居場所として、ゆめみ～るとの周知を図ることが出来た。	3	継続して実施する。
③つながる	ゆめみ～るとの朝市や鉄南フェスティバル、鉄南文化祭、鉄南新年恒例会により、地域内のつながりづくりに寄与出来ている。	4	継続して実施する。
④伝える	各单位町内会では安定した活動を行うことが出来たが、活動においてきずなを伝える努力が必要と感じている。	3	集まりの機会等できずなの大切さを伝えていく。
⑤高める	ゆめみ～るとを拠点にした日常生活支援(朝市や行事の送迎、出前販売など)により地域福祉に貢献している。	4	継続して実施する。



地域交流の促進(生きがいと世代間交流の促進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	幌別東小学校との地域交流により、子ども達の現状を知ることができた。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	幌別東小学校運動会dの地域種目の参加や学習発表会の参加等により世代間交流を深めた。	4	継続して実施する。
③つながる	幌別東小学校や地域老人クラブとの連携を深めた。	4	継続して実施する。
④伝える	世代間交流を行う中で、あらためてきずなの大切さを伝えることができた。	4	きずなの大切さを伝えてきたい。
⑤高める	幌別東小学校児童との交流により、地域の生きがいづくり等に寄与することができた。	4	継続して実施する。



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	森 芳昭	きずな推進委員	對馬 敬子
サブリーダー	田淵 利男	きずな推進委員	竹中 洋子
サブリーダー	鳴海 文昭	きずな推進委員	杉尾 直樹
きずな推進委員	松原 憲康	きずな推進委員	渡辺 麗子

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
適宜、幌別鉄南地区連合町内会会議において協議			
2月16日	幌別東小学校区住民福祉座談会	34名	1)小地域ネットワーク事業について 2)災害時緊急情報伝達網の再確認について 3)地域福祉の拠点「ゆめみ〜る」へのお願いについて

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

すずらん団地町内会	幌別第一町内会
幌別第二町内会	幌別第三町内会
幌別鉄南第5町内会	幌別鉄南第6町内会
幌別鉄南第7町内会	幌別鉄南第八町内会

実施率 100.0% (8 / 8)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあい・いきいきサロン

いきいきサロンてつなん	いきいきサロンききょう
いきいきサロン一刻者	

ふれあい会食会

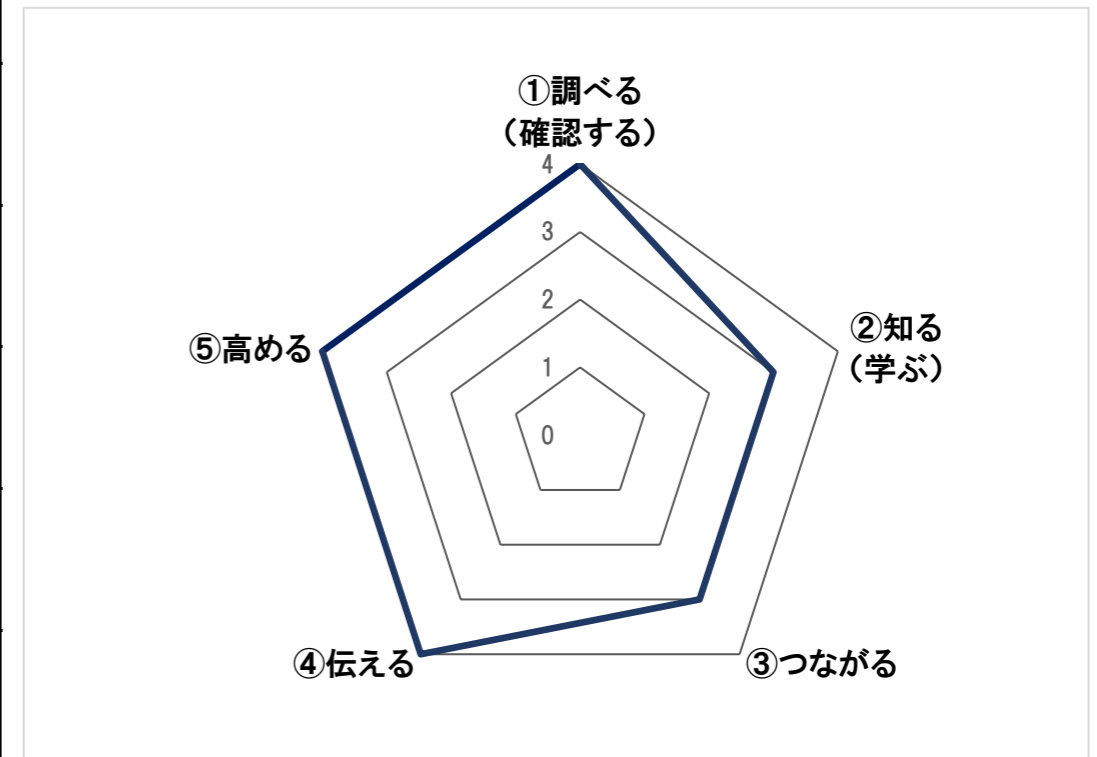
すずらん団地町内会	幌別第二町内会
幌別第三町内会	幌別鉄南第5町内会
幌別鉄南第7町内会	幌別鉄南第八町内会

実施率 75.0% (6 / 8)

幌別小学校区

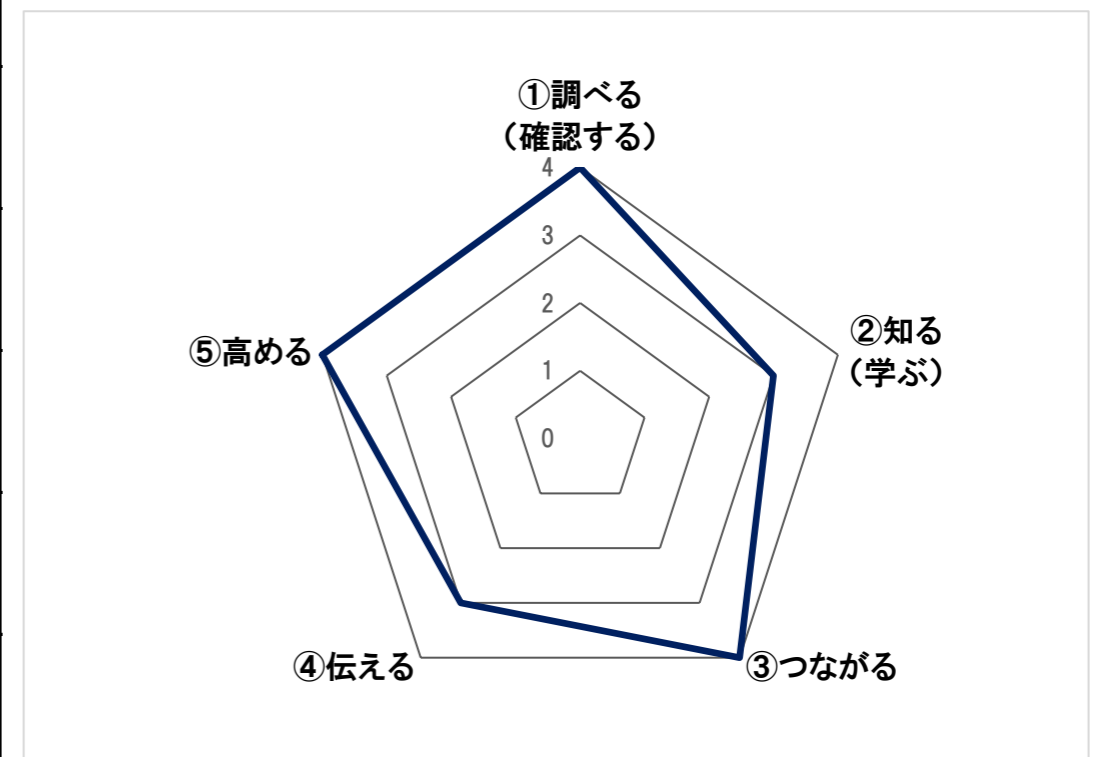
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	校区きずな推進委員会や各種会議等において、都度地域の状況を確認した。	4	会議の場はもちろん、普段の地域での活動の場から直接状況を確認する機会が必要である。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかったが、各地域では活発に行われている。	3	状況を見ながら、その時取り組めることを行っていく。
③つながる	校区きずな活動を推進するにあたり、適宜関係する団体等とつながりを持った。	3	つながりを生かし、地域住民の暮らしを支えていく。
④伝える	日々のきずな活動において、きずなの必要性を伝えていった。	4	継続して実施する。
⑤高める	きずな活動を通して、地域福祉への意識の維持・向上を図った。	4	なぜきずなや地域福祉活動等が必要なのかを再確認し、単なる取り組み内容の伝承ではなく想いを伝承していく方法を検討する。



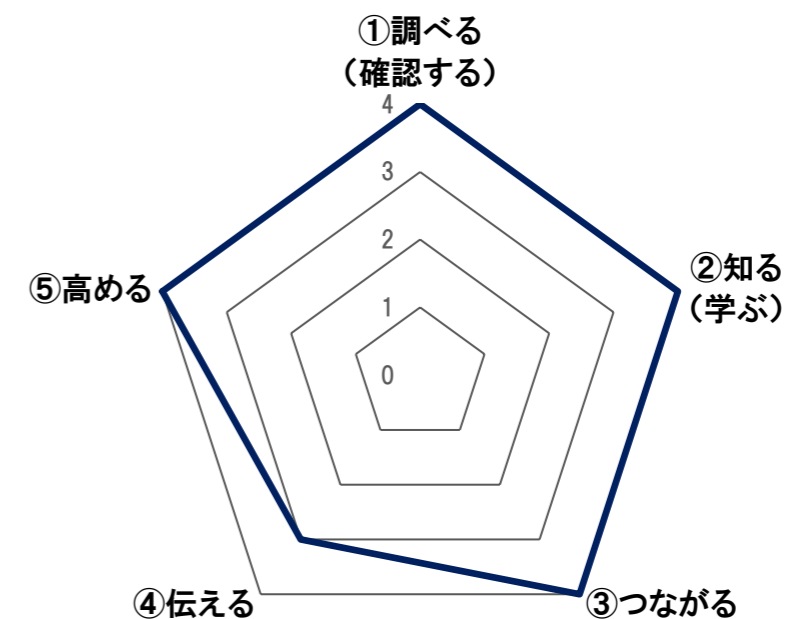
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	地域の状況に応じた見守り活動が実施されている。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかった。	3	見守り活動に関わる担い手に対する、福祉活動の意義や目的を学ぶ機会を設ける必要がある。
③つながる	町内会や民生委員・児童委員とが連携し合いながら活動を進めた。	4	より関係機関・団体等と地域の課題について話し合う機会が必要。
④伝える	日頃の活動を通して伝えているが、どれくらい浸透しているかは分かりかねる。	3	地道に伝え続けていく必要がある。
⑤高める	日頃の活動を通して地域の意識が高まるよう努めている。	4	継続して実施する。



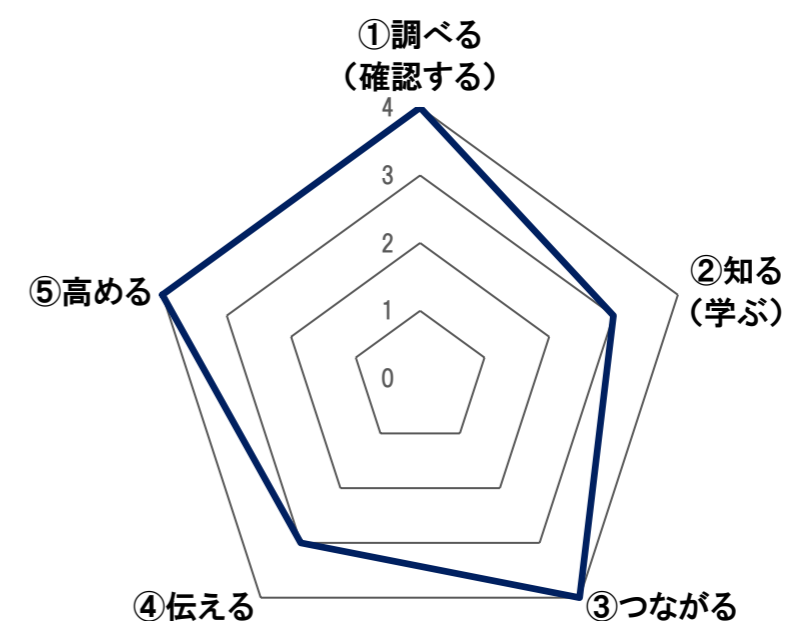
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロンの推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	サロン活動によって、地域の実情を確認する機会となっている。	4	コロナ禍で十分なサロン活動が行えるかは不透明であるが、出来ることを進め、都度振り返りを持つ機会が必要。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかったが、地域ごとには学ぶ機会を独自に設定していた。	4	都度振り返りや反省を継続して行っていくことが学びにつながる。
③つながる	ニナルカの里で行われたサロンにおいて、町内会・民生委員・老人クラブ・専門職等がつながる機会となった。	4	関係機関・団体等と連携し合い、校区の福祉について考えることが必要。
④伝える	きずなや福祉活動の必要性を伝える場として行ったが、理解が進んでいるかは不明である。	3	継続して地域住民が安心して暮らせるための福祉とはなにかを伝える機会として機能させる。
⑤高める	地域の居場所として地域福祉の向上に寄与した。	4	コロナ禍の影響で先行き不透明であるが、継続して実施していく。



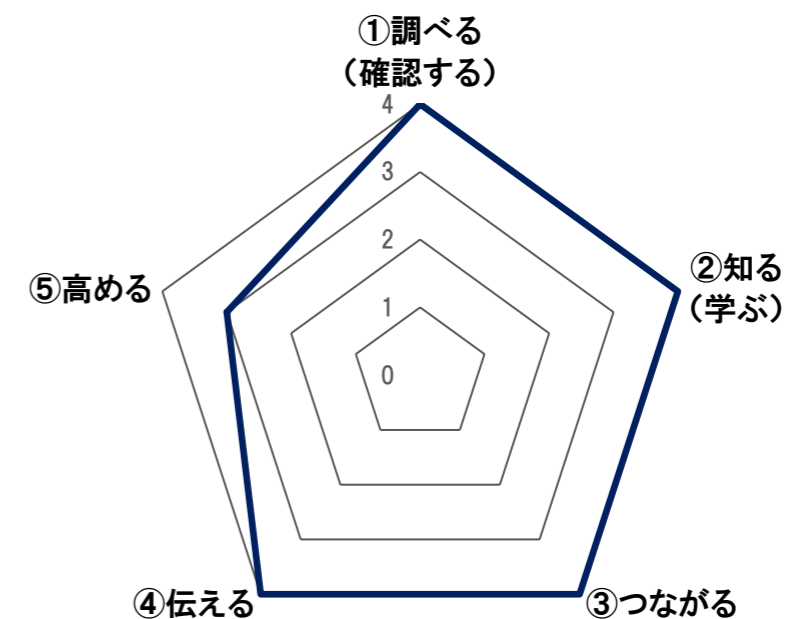
高齢者・障がい者等の声かけ見守り(向こう三軒両隣)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	鍵預かりサービス事業の実施等により、地域の実情を確認しながら活動を進めた。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	新型コロナウイルス感染症の影響により、校区きずな推進委員会として学びの機会の設定をすることはできなかった。	3	コロナ禍の影響により先行き不透明であるが、声かけ見守りの必要性について学ぶ機会を設定する。
③つながる	各種事業を通じて、様々な福祉関係者とつながりあうことができた。	4	継続して実施する。
④伝える	活動を通じて、高齢者や児童への声かけ見守りの必要性などを伝えている。	3	活動の方法よりなぜ必要なのかなど想いの部分を伝えていく。
⑤高める	活動を継続することが、地域福祉の意識や価値を高めることにつながる。	4	継続して実施する。



防犯・防災活動

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	各地域において、胆振東部地震の経験等を生かしながら活動が行われている。 地域によっては福祉施設見学等を行い、自分たちの地域にどのような資源があるか確認し、避難所の検討を進めた。	4	これまでの教訓を踏まえ避難場所などの確認・検討を進めていく。
②知る (学ぶ)	日々の活動において防災・防災への学びに自然に寄与している。 地域によっては学びのために施設見学を実施した。	4	継続して実施する。
③つながる	日頃のつながりを生かしながら、適宜関係者をつながりを持っている。	4	継続して実施する。
④伝える	日頃からの防犯・防災に関する取り組みの必要性を伝えていく。	4	自主避難所の重要性やあり方などについて地域が考えられるように働きかけていく必要がある。
⑤高める	自助・互助の意識の高まりに寄与した。	3	きずな推進委員自身が校区の福祉の第一線にいるという自覚を持ち、学んでいく姿勢が必要である。



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	畠山 重信	きずな推進委員	前野 充紀子
サブリーダー	竹中 脩巖	きずな推進委員	八島 年勝
サブリーダー	山崎 敏男	きずな推進委員	脇 俊昭
きずな推進委員	千葉 一男	校区きずな推進委員	及川 富夫
きずな推進委員	伊清 淳彦	校区きずな推進委員	今 平人

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
5月22日	第1回幌別小学校校区きずな推進委員会	6名	1)昨年度の校区きずな計画評価について 2)今年度の校区きずな計画の実施内容について

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

札内・来馬地区連合町内会	新栄町内会
千歳町内会	緑ヶ丘町内会
南千歳町内会	常盤町内会
中央町駅前町内会	中央町十字街町内会
中央新生町内会	中央町内会

実施率 72.2% (13 / 18)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあいいきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあいいきいきサロン

ゲンキアップニナルカ	いきいきサロン南千歳
われら・いきいき探偵団	中央東町内会いきいきサロン
常盤ラポール・サロン	

ふれあい会食会

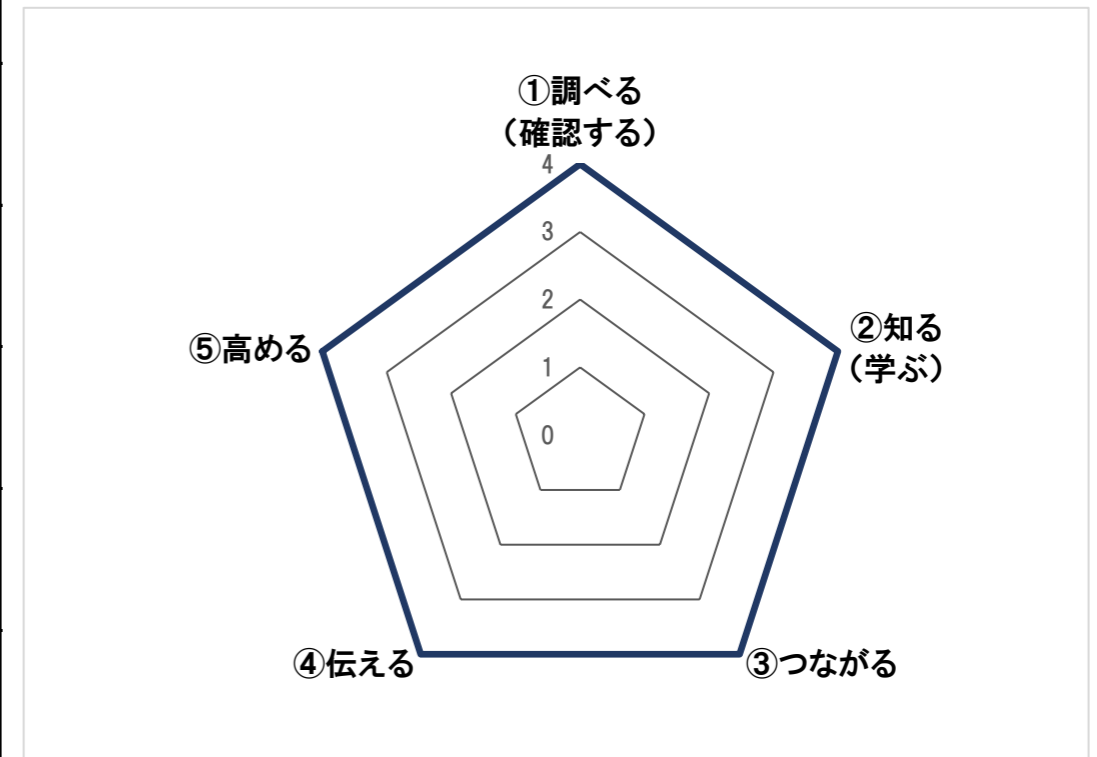
千歳町内会	ニナルカ町内会
緑ヶ丘町内会	南千歳町内会
常盤町内会	中央町十字街町内会
中央町内会	中央東町内会

実施率 44.4% (8 / 18)

幌別西小学校区

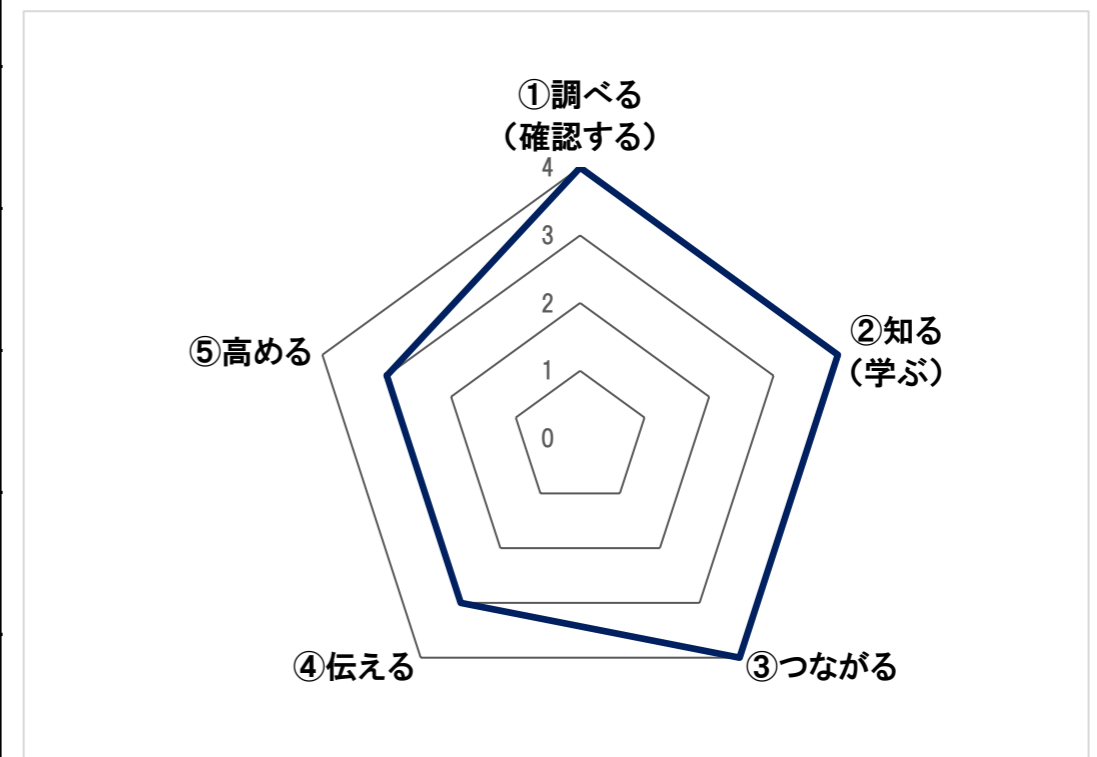
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	きずな推進委員会等で、地域福祉について意見を共有し、他地域の理解を深め合ってきた。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	住民座談会は開催できなかったものの、勉強会や会議を通して学びや気づきを深めていった。	4	継続して実施する。
③つながる	町内会の各種行事において地域のきずなが深まってきている。	4	地域全域にきずな活動が広がるよう各地域に働きかける必要がある。
④伝える	各地域での行事等を通して、地域での人と人とのつながりの大切さを伝えてきた。	4	継続して実施する。
⑤高める	各種行事において、認識や理解を高めることが出来た。	4	今後も地域の小さな声を拾いながら継続して実施する。



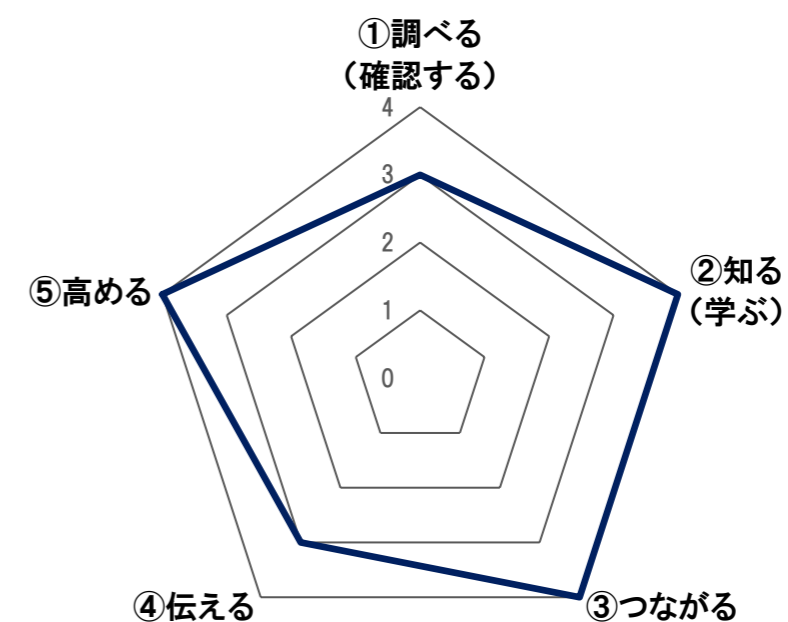
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	全市割合からみても台帳の配付率は高く、その理解についても普及するよう努めている。	4	コロナ禍で行えない取り組みも多くあるが、できることを大切にしながら行っていく。
②知る (学ぶ)	会議や勉強会を通して、意見交換や取り組み状況について疎通を図ってきた。	4	継続して行う。
③つながる	地域差は否めないものの、周知活動を継続した。また、見守り時になにか変化があれば適宜関係者をつないでいる。	4	各地区、委員にも働きかけていく。
④伝える	H29の委員増加以降、本活動が各地区へ伝わる経路作りの取り組みを継続している。	3	継続して行う。
⑤高める	町内会や民生委員との繋がりを強め、連携強化を図っている。	3	電話やまごころレターなどを活用しながら取り組みをより進める。



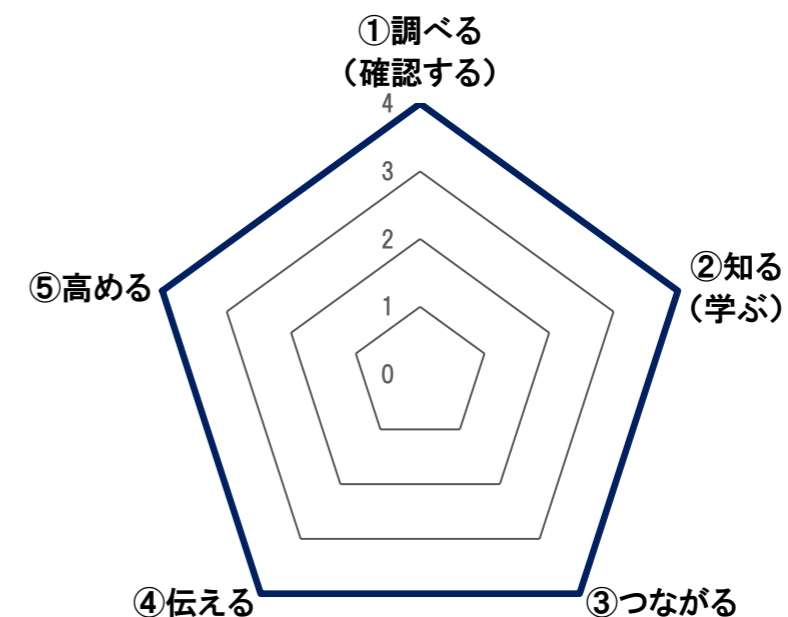
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロンの推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	既存のサロン活動や老人クラブ活動等は継続的に行われている。	3	継続して行う。
②知る (学ぶ)	サロン活動を通して、日頃関りの少ない方や独居高齢者等との接点を作ることは出来た。	4	継続して行う。
③つながる	民生委員や専門職の継続的な参加により、関わりとしての入り口や相談場所としても機能している。	4	継続的に専門職にも協力を働き掛ける。
④伝える	地域差はあるものの、日頃の福祉活動(きずな)が重要であり、普及も少しずつ行っている。	3	各者の活動が「きずな活動」でもあることを携わっている方々に理解を促していく。
⑤高める	支援者と利用者、双方にとって地域の居場所として機能している。	4	コロナ禍で活動をしないことが当たり前にならないようにできることを続けていく。



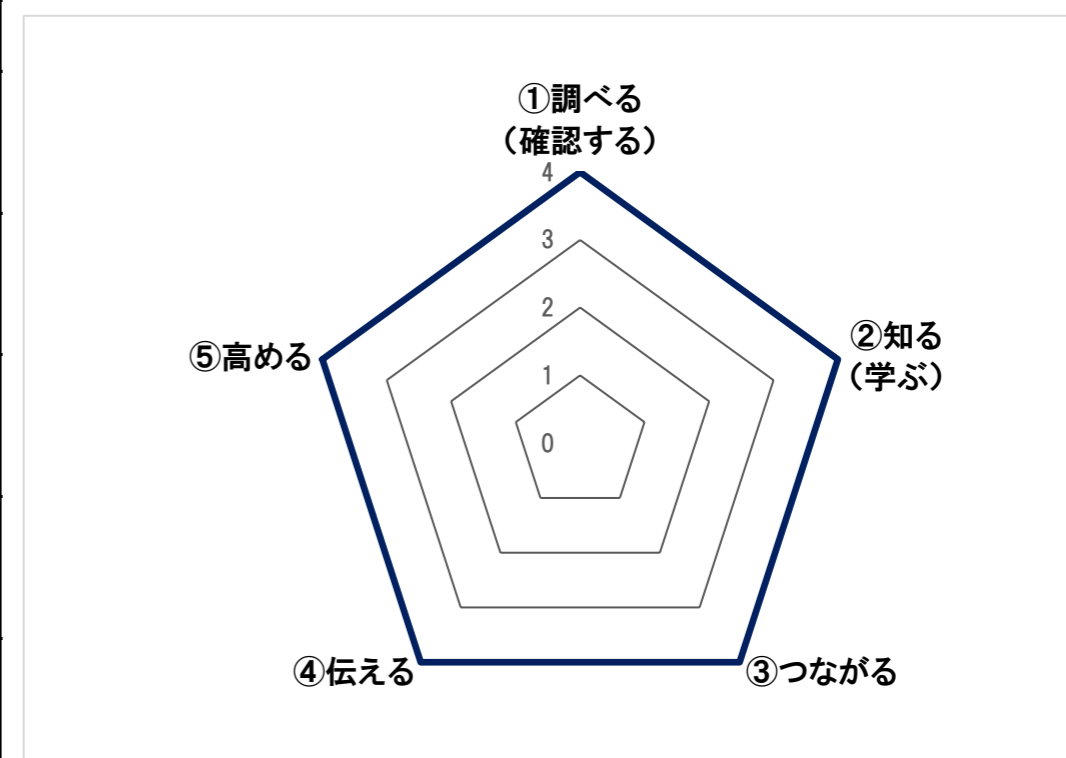
世代間交流(子育て支援、世代間交流活動の連携・情報共有)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	明日中等教育学校の生徒との意見交換を行い、若い世代の考えや町に対するイメージを確認し、刺激を受ける事ができた。	4	明日生徒も大事だが、幌別西小学校・西陵中学校の児童・生徒とも意見を交わす必要がある。
②知る (学ぶ)	明日中等教育学校の生徒との意見交換を通して、今後の登別に対する考えや発想を知ることが出来た。	4	互いが学び合う機会として今後も実施する。
③つながる	各町内会行事や意見交換会を行い、これまで以上に各世代間との接点を持つことが出来た。	4	継続して行う。
④伝える	行事や意見交換会を通して、10代の若い世代に町のことや活動について誓いを促すことが出来た。	4	継続して行う。
⑤高める	世代間交流の場に参加したことで、各委員の意識や若い世代が考えることについても触れることが出来た。	4	継続して行う。



防犯・防災活動(避難訓練の実施や緊急時の連絡体制の整備)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	幌別西小学校・西陵中学校との協働により避難訓練を実施し、自宅からの避難行動について確認することができた。	4	学校協働の実施は隔年になるが、継続して実施する。
②知る (学ぶ)	子どもたちを交えた訓練を実施したことで、子どもたちの学びに寄与することができた。	4	様々な災害パターンを想定して研鑽を深めていく必要がある。
③つながる	訓練の実施を通じて、学校や生徒とのつながりを強める事ができた。 また、避難の際に要支援者への支援を促すことで個々のつながりを築くことに寄与できた。	4	父兄も交えた意見交換の場の必要性を感じる。
④伝える	各種活動を通じて、日頃からの備えや動きを知ることの重要性を伝える事ができた。	4	小地域ネットワークなどとも連携しながら継続して行う。
⑤高める	訓練の実施や連絡体制の整備を進めたことで、地域内の防災意識向上や体制強化に寄与することができた。 また、発電機を備える地域も増加した。	4	継続して行う。



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	島田 幸一	きずな推進委員	伊藤 信一	きずな推進委員	小沢 裕美子
サブリーダー	石山 典子	きずな推進委員	宮地 真治	きずな推進委員	内山 雅義
サブリーダー	村井 寿行	きずな推進委員	鈴木 尚美	きずな推進委員	木村 俊子
きずな推進委員	三浦 忠夫	きずな推進委員	工藤 章造	きずな推進委員	細川 重雄
きずな推進委員	太田 通	きずな推進委員	岡田 敏治	きずな推進委員	楠本 賢一

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
5月28日	第1回幌別西小学校区きずな推進委員会	8名	1)昨年度の校区きずな計画評価について 2)今年度の校区きずな計画の実施内容について
9月18日	第2回幌別西小学校区きずな推進委員会	8名	1)北海道登別明日中等教育学校生徒と地域住民の意見交換について 2)幌別西地区避難訓練の実施について 3)地域拠点丸ごと支え合い事業の進捗状況等について
1月14日	第3回幌別西小学校区きずな推進委員会	9名	1)幌別西小学校区住民座談会の内容について 2)北海道登別明日中等教育学校生徒と地域住民の意見交換について 3)地域拠点丸ごと支え合い事業の進捗状況について
—	幌別西小学校区住民座談会	—	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

柏木町内会	柏木団地町内会
プレハブ町内会	新和会
山手町内会	新川町内会
香風町会	西団地町内会
片倉町内会	

実施率 75.0% (9 / 12)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあい・いきいきサロン

サロン皆の衆	風と共に歩こう会
香風町会ふれあいサロン	ふれあいサロン

ふれあい会食会

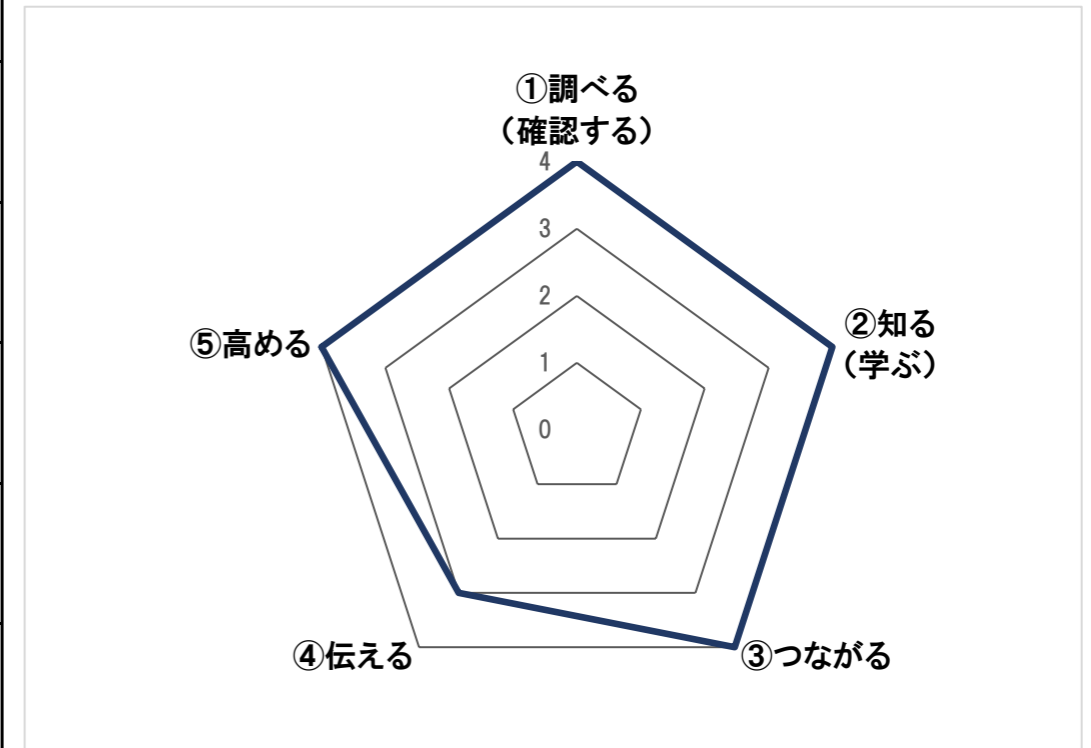
柏木町内会	柏木団地町内会
新和会	新川第二町内会
香風町会	片倉町内会
西団地町内会	

実施率 58.3% (7 / 12)

青葉小学校区

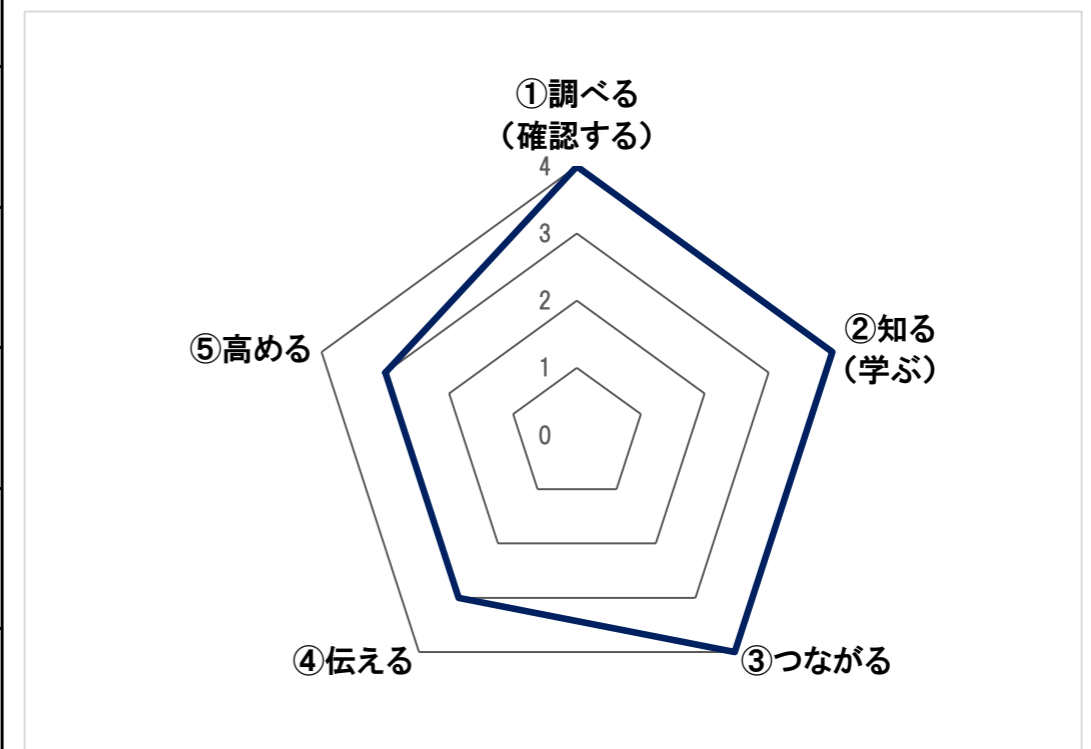
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	各町内会ごとの推進状況や取り組み等を把握しながら地域間の情報を実践活動に活かしている。 現在、小地域ネットワーク活動は、1町内会の増で10町内会町が実施状況にある。*実施率は、90.9%(10/11町内会) 校区推進委員会の会議を1回開催(コロナ禍で1回中止)、更に、地区連役員会等で活動を報告している。	4	引き続き実施したい。特に、小地域ネットワーク活動は、1町内会を残すのみ。
②知る (学ぶ)	令和元年度のきずな計画4年目の重点項目を第1回校区推進委員会で確認し、更に第2回青葉地区連役員会で承認を得ながら取組の周知を図った。	4	引き続き実施したい。
③つながる	本校区推進委員会は、地区連福祉部を兼ねた組織体制で行っている為、校区内の各町内会の福祉部とつながっている。また、地区連役員会においてもきずな計画の推進状況を報告し、各町内会長に理解と協力を求めた。 更に、3年目を迎えた「あいサポート運動」の市主催研修会に参加し、「障がい者(視覚障害者 車椅子)」に対して気軽にサポートできる意識付けの活動も行った。	4	引き続き実施したい。
④伝える	校区推進委員会や青葉地区連役員会を通してきずな計画(全市・校区)について進捗状況を報告し、校区内の町内会役員等にきずな計画を伝えることができたと考えが 一般の地域の方々への普及・理解等をもっと図る反省点がある。	3	引き続き実施したい。 組織的な役員と地域の一人ひとりの関わりや活動等の展開を考える必要がある。
⑤高める	第3期計画も4年目となり、校区計画もかなり浸透してきたと考えるが、更に推進委員会や地区連役員会等を通じて情報共有することで、日々の福祉活動に対する意識を高めることにつながるため、会議の担う役割は大きい。	4	引き続き実施したい。



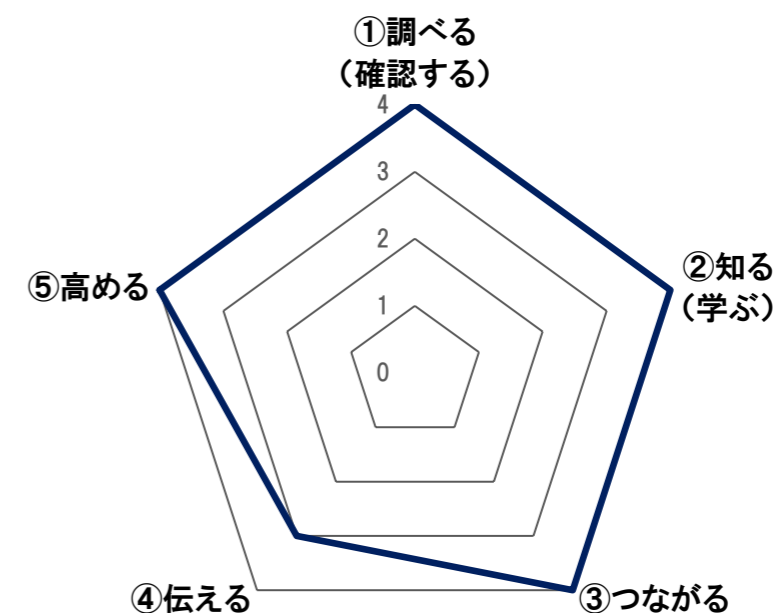
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	現在、11町内会中10町内会が実施。(1町内会増) 実施率は、校区内で90.9%である。	4	小地域ネットワーク活動の実施町内会100%を目指す取り組みを図る。更に、地区連の令和2年度の事業計画に盛り込む。 新たに、行政が行っている「高齢者などに対する緊急通報機器の貸与事業」の貸与実態や活用状況を把握し、高齢者(特に独居者)の見守りに生かせるか検討する。
②知る (学ぶ)	校区推進委員会や地区連役員研修会等で小地域についての説明する場を設けた。また、「きずなシンポジウム」や「小地域ネットワーク研修会」等の社協開催の事業への参加による情報や体験談を聞き他の校区の実態を知ることが出来た。	4	引き続き実施したい。
③つながる	本校区は、地区連福祉部が校区推進委員会と兼ねた組織運営をしており、現状把握や連携が図りやすい。中には、民生委員・児童委員も兼ねている委員もいる。 その他の諸団体とのつながりも重視しながらできるだけ共有してきた。	4	引き続き実施したい。 従来からの諸団体とは継続的に関わり、高齢者や介護施設等との関わり方を具体的に検討する必要があると考える。
④伝える	小地域ネットワーク活動でも特に「安心キット」の普及までは取り組まれているが、そこからの展開がまだまだのようだ。特に、世帯数の大きい町内会では、十分把握できていない。	3	引き続き実施したい。
⑤高める	小地域ネットワーク活動を推進する上で、「いきいきサロン」「ふれあい会食会」等で説明しながら、小地域ネットワーク活動への理解を深める取組を図った。	3	小地域ネットワーク活動の100%導入を促す取組を図る。 地域ごとで連携の取れた継続的な活動を行なう必要がある。



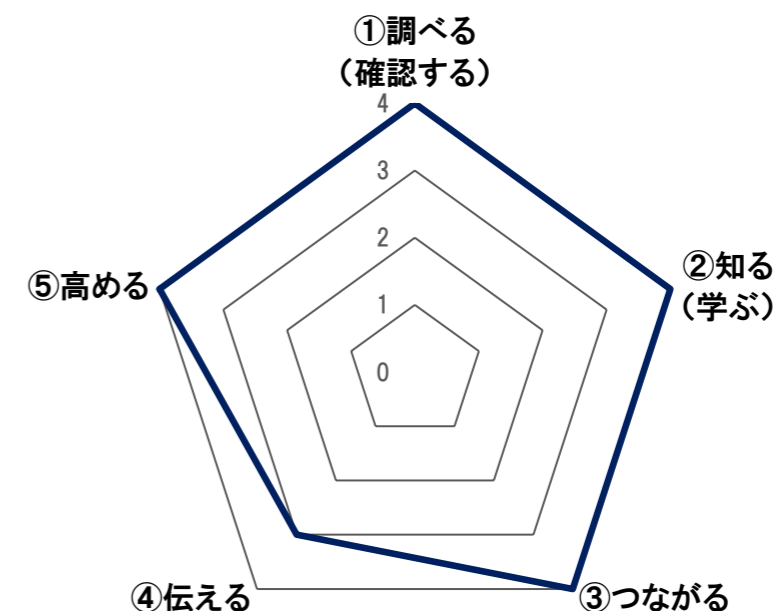
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会の推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	既存のサロン活動は定期的に行われている。 実施状況: サロン活動 7団体(1未登録)、ふれあい会食会 8町内(1未登録)	4	現在、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、対策的には、多数の参加での集まりは、自粛や開催方法の対策を講じながらの活動が制約を受ける状況にあり、活動そのものが危惧される。 そのようなコロナ禍の中で活動ができる環境を探る。
②知る (学ぶ)	サロン活動や会食会等を通して、高齢者等との関わりができた。 サロンサポーター連絡会に参加し、知識の醸成と情報交換の中、サロンの活性化に活かされた。	4	引き続き実施を推進する。
③つながる	サロンサポーター連絡会(3回/年)等に参加し、他地区で行われている状況を把握しつつ、情報交換を通して市内のサロンサポーターや関係機関と繋がることができた。	4	次年度も様々な情報を得られるよう連絡会等に参加したい。
④伝える	サロン活動や会食会等で「きずな」について話をする機会を設けている。その受け止めは定量的には把握できないが、参加者には浸透してきているものとする。 サロンや会食会等を広報に掲載し活動状況を周知している地域もあり参考になる。	3	更に浸透を図る活動を引き続き推進する。
⑤高める	サロンについては、地域の居場所として機能している。また、会食会を開催することで地域で見守りが必要な人を把握することができた。 活動の内容に工夫を凝らしながら参加者への意識を高めるようにしている。	4	引き続き実施を推進する。



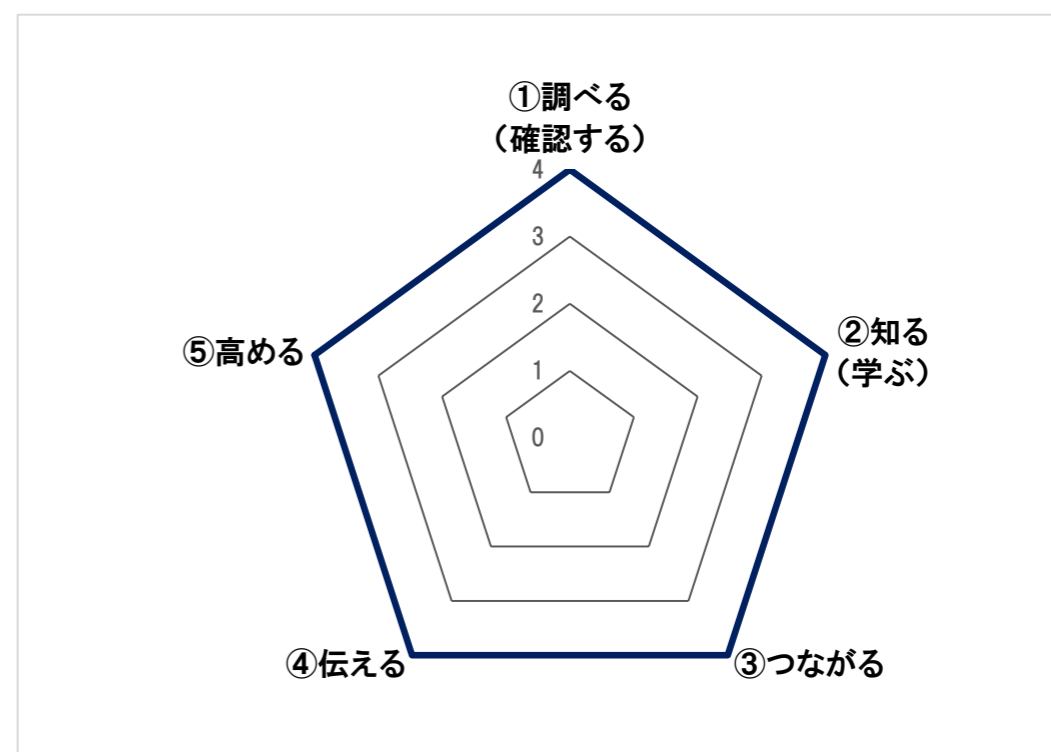
子育て及び高齢者福祉対策の推進

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	今年度は、特に子ども見守り活動として登下校時の声掛けや交通安全・防犯に対する啓発を中心に実施することができた。 また、青パト車との連携も図りながら大きな活動の成果となったと考える。	4	長年の事業として諸団体との連携で引き続き実施を推進する。 更に、地区連で令和2年度の事業計画に盛り込む。
②知る (学ぶ)	三地区育成会を通して、不審者情報や交通安全に関する情報を入手でき、更に防犯活動にも連動させることができた と考える。	4	引き続き実施を推進する。 更には、高齢者への取組について把握していく。
③つながる	三地区育成会(青葉小・富岸小・緑陽中)と連携を図りながら行った。 また、その他団体として「あおば元気な会」「おやじの会」「子ども見守り隊」などとの繋がりのある活動になったと考える。 老人クラブとの関わりは各町内会毎に行う中、安否確認や健康情報提供など行って来た。	4	引き続き実施を推進する。 更に、高齢者への取組を行っていく。
④伝える	活動そのものが「きずな」の実践として定着している活動である。 活動をする上で中学校区の「三地区育成会」「学校運営協議会」等との連携で、情報共有しながら活動出来ている。	3	引き続き実施を推進する。 更には、高齢者への取組について把握していく。
⑤高める	見守りパトロールや交通安全街頭啓発には多くの元気な高齢者の協力で、防犯はもちろんのこと、児童や地域住民への見守りにも繋がっている。	4	引き続き実施を推進する。 更には、高齢者への取組について把握していく。



防犯・防災対策で安心安全な生活環境づくり

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	昨年度に引き続き、今年度も三地区育成会との合同津波避難訓練の実施ができ、学校側との共通認識が醸成できたことが大きな取組となった。更に、今回小学生は学校内で、中学生は自宅からの地域の方々と一緒に行動での訓練であった。 津波避難訓練の参加状況・・・町内会90名、中学生126名、小学生284名 更に一般の参加者を増やす努力が必要と考える。	4	引き続き実施を推進する。 全市一斉の津波避難訓練の実施を希望する。 避難ビル指定の役割とその運営について検証する必要性がある。
②知る (学ぶ)	地区連に独自の「自主防災連絡協議会」があり、会議の中で情報を共有できたと考える。特に、合同避難訓練の実施要領が綿密に図れたと考える。 胆振東部地震によるブラックアウト発生がもたらした停電から、市から非常用発電機の貸与があり、自主防災協として取扱いの研修と管理方法について学ぶことが出来た。	4	引き続き実施を推進する。 今後想定される外国人居住に伴う対応について(防犯上)
③つながる	主体的には、「自主防災連絡協議会」をもって、各町内会との連携を図ることとしており、十分に繋がることできたと考える。また、市連合町内会の「緊急災害時情報伝達網」による各町内会と繋がりが図れた。 今年度も三地区育成会との合同訓練が、中学生も一緒に行動する訓練として実施することが出来たことが、大きな成果と考える。	4	引き続き実施を推進する。
④伝える	「自主防災連絡協議会」において、各町内会長・防災協力員に第3期きずな計画を確認しながら、日常における地域意識を高揚できたものとする。	4	引き続き実施を推進する。 今年度も、「緊急災害時情報伝達網」の見直し
⑤高める	防災避難訓練の地区連として統一的な訓練を実践できたことが成果とできる。更に展開できるものとする。	4	引き続き実施を推進する。 令和2年度の地区連事業計画に織り込む。 (コロナ禍の状況を見極めて)



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	田渕 純勝
サブリーダー	桑井 孝子
サブリーダー	近藤 トシ子
きずな推進委員	吉田 伸吾
きずな推進委員	亀山 聖

校区きずな推進委員	堀尾 政江
校区きずな推進委員	宇佐美 裕彰
校区きずな推進委員	津川 正博
校区きずな推進委員	中山 和恵

校区きずな推進委員	池上 英彦
校区きずな推進委員	遠藤 正一
校区きずな推進委員	垣内 博

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
6月20日	第1回青葉小学校校区きずな推進委員会	12名	1)昨年度の活動報告 2)昨年度の校区きずな計画評価について 3)今年度の校区きずな計画の実施内容について など

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

来福町内会	さくら団地自治会
西川上町内会	新登津町内会
緑町団地町内会	青葉町青嶺高町内会
若緑町内会	あかしや町内会
若山団地町内会	市営住宅桜木自治会

実施率 90.9% (10 / 11)

居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食)

ふれあい・いきいきサロン

サロンさくら会	いきいきサロン桜木
カラオケクラブ「シロクマ会」	いきいきサロン結
わかやまサロン	若山団地サロン

ふれあい会食会

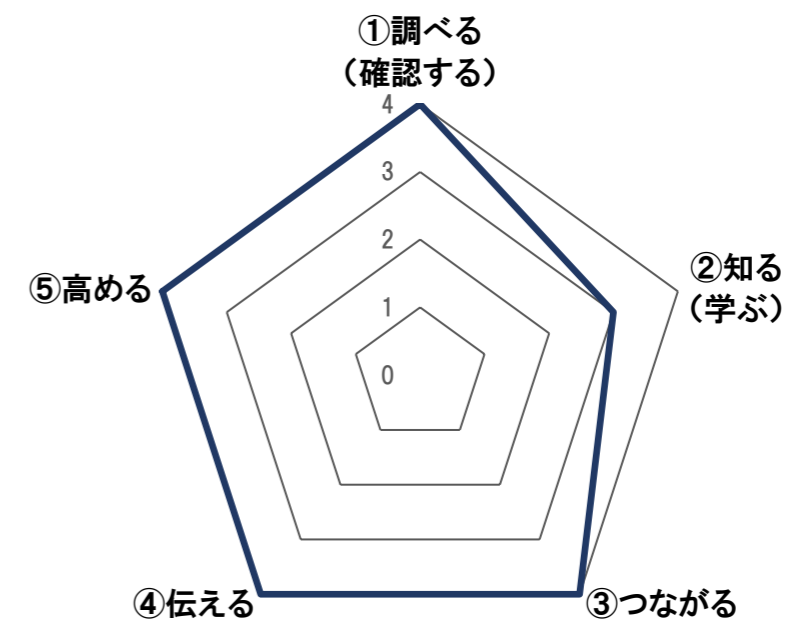
来福町内会	桜木団地町内会
西川上町内会	新登津町内会
若緑町内会	あかしや町内会
市営住宅桜木自治会	

実施率 63.6% (7 / 11)

富岸小学校区

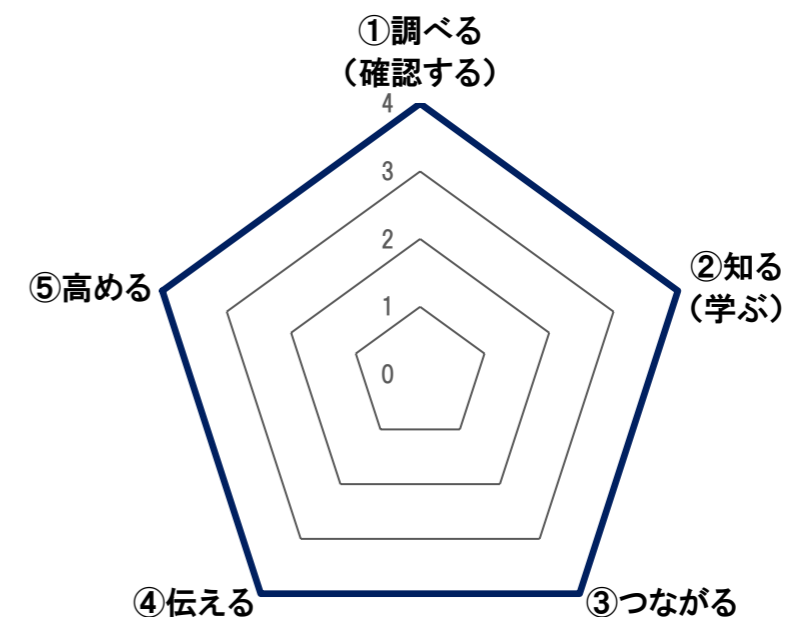
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	住民座談会は実施できなかったが、校区の委員会において各所の現状や課題などについて整理を行った。	4	継続して行う。
②知る (学ぶ)	次年度以降の住民座談会等で、専門的な知識の獲得や少人数制でも良いので多様な人を巻き込んだ研修機会を設けたい。	3	内容について校区内でも検討をしていく。
③つながる	推進委員会や各者の活動を継続して行っている。	4	継続して行う。
④伝える	訪問や地域活動を通して、地域差はあるものの取り組んでいる。	4	継続して行う。
⑤高める	基盤づくりは進んでいると考えるが、地域差を埋めるために今後も周知活動を継続する。	4	継続して行う。



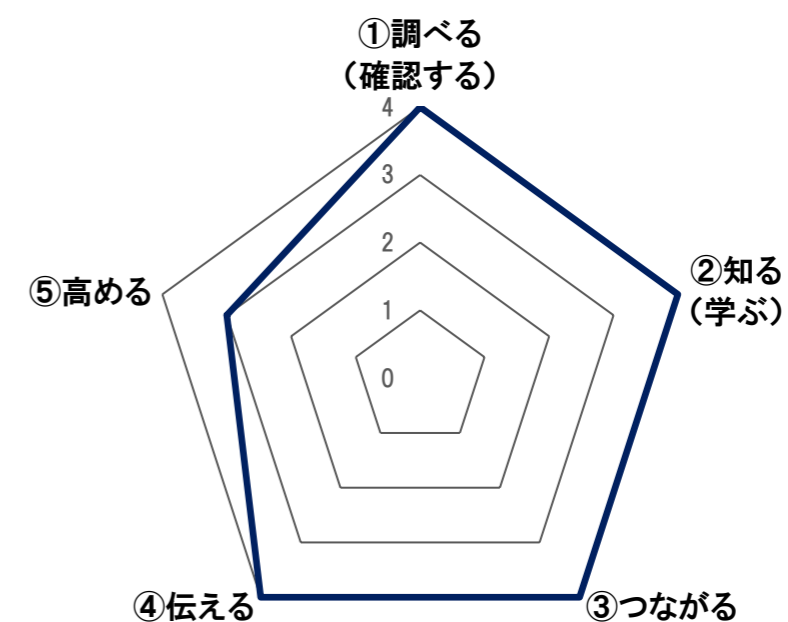
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	小地域ネットワークをはじめ、防災訓練にも積極的に取り組み、声掛けや訪問等を行った。	4	継続して行う。
②知る (学ぶ)	推進会議等で各地域の現状把握を行った。	4	継続して行う。
③つながる	町内会、民生委員はもとより、関係機関との連携も図れている。	4	継続して行う。
④伝える	高い水準を保ってはいるが、それを実際に利用する関係機関との連携も積極的に継続していく。	4	継続して行う。
⑤高める	各地区との連携や共有を行う。	4	継続して行う。



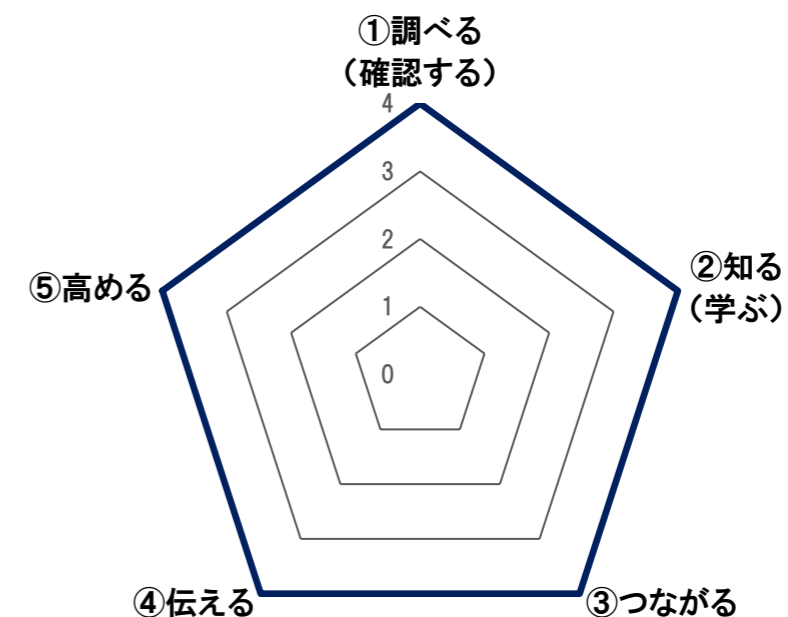
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロンの推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	既存サロンの活動は安定している。	4	継続して行う。
②知る (学ぶ)	活動への理解やその輪も少しずつ広がっている。	4	継続して行う。
③つながる	町内会や関係機関との連携がスムーズに行えている。	4	継続して行う。
④伝える	小地域ネットワーク活動等できずなを伝えることは出来ているが、行き届かない場所や地域の隙間を埋めていく。	4	継続して行う。
⑤高める	居場所や生活の一部としての機能は十分に果たしている。	3	継続して行う。



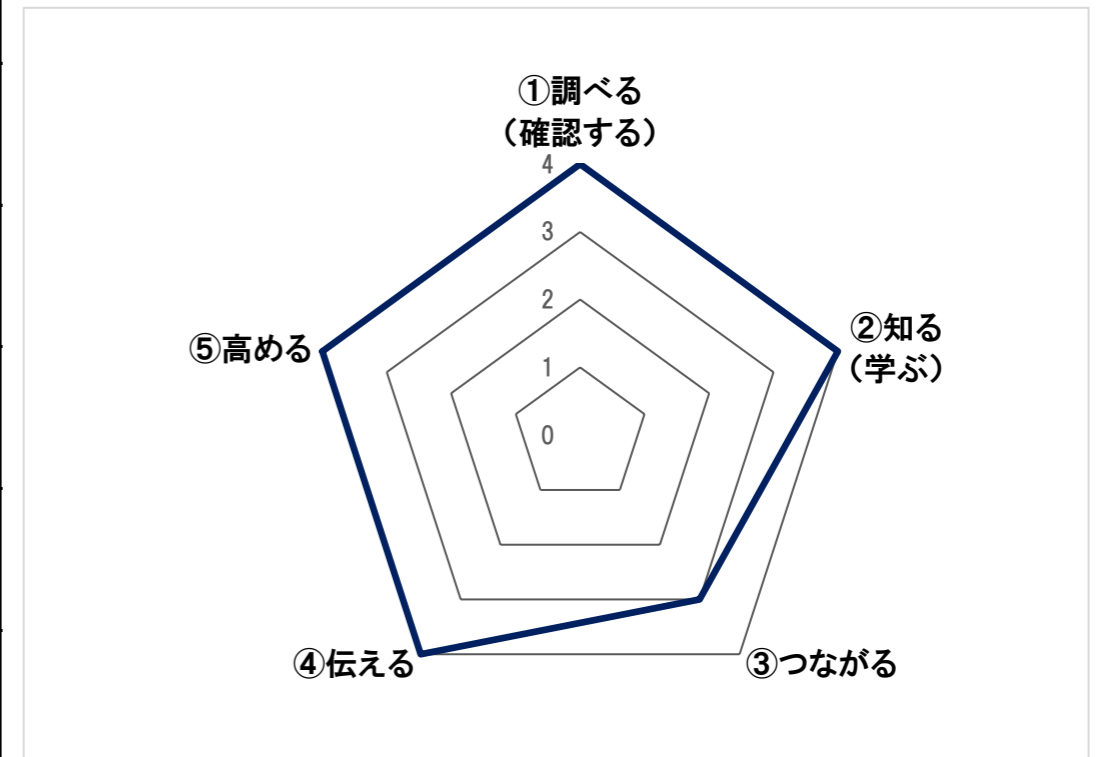
防災計画(防災計画の策定、避難訓練の実施)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	各地区で定期的に避難訓練を実施している。防災意識は区年代を通して広がっていると考える。	4	継続して行う。
②知る (学ぶ)	意見交換の場や座談会等の参加者に対して、もっと参加しやすい方法や周知活動を検討したい。	4	継続して行う。
③つながる	各年代や日頃繋がりにくい部分とも連携を図れるよう、訪問や関わりを持ちたい。	4	継続して行う。 研修会や座談会等の周知方法や各年代との繋がりも検討したい。
④伝える	統一された情報交換の場を持てるよう考えたい。	4	継続して行う。
⑤高める	各者の防災意識は高く、広く住民にも理解されていると考える。	4	継続して行う。



きずな安心キットの推進

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	地区としての取り組みは十分に行えており、未加入者に対するアプローチも継続中。	4	継続して行う。
②知る (学ぶ)	各者の理解や必要性の意識も高い。更に細かな部分まで関わりを持てるよう継続する。	4	継続して行う。
③つながる	住民座談会だけでなく、町内会や民生委員との連携・繋がれる場を拡充していきたい。	3	継続して行う。
④伝える	各世代も含めて、周知活動を行っていく、	4	継続して行う。
⑤高める	校区全体の課題として各者が取り組んでいる。	4	継続して行う。



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	瀧川 正義	きずな推進委員	中山 晃一
サブリーダー	袖山 功	きずな推進委員	亀山 秀一
サブリーダー	工藤 保秋	きずな推進委員	山道 春秋
きずな推進委員	筑野 栄子	きずな推進委員	有野 國男
きずな推進委員	八重樫 一男	校区きずな推進委員	菊地 由三

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
10月18日	第1回富岸小学校区きずな推進委員会	－	※会議中止
1月29日	第2回富岸小学校区きずな推進委員会	7名	1)富岸小学校区住民座談会の内容について 2)意見交換
3月19日	富岸小学校区住民座談会	－	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

若葉町内会	富岸町内会
富浜町内会	新生町内会
新生団地町内会	新生町2丁目町会
新生北町内会	新生町三丁目町会
新生町望洋町内会	

実施率 81.8% (9 / 11)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあい・いきいきサロン

寿サロン	いきいきサロン若葉
サロン「スマイル」	ふれあい会
新生町2丁目町会いきいきサロン	健康サロン・レインボー
元気サロン虹の会	新生きらきらサロン

ふれあい会食会

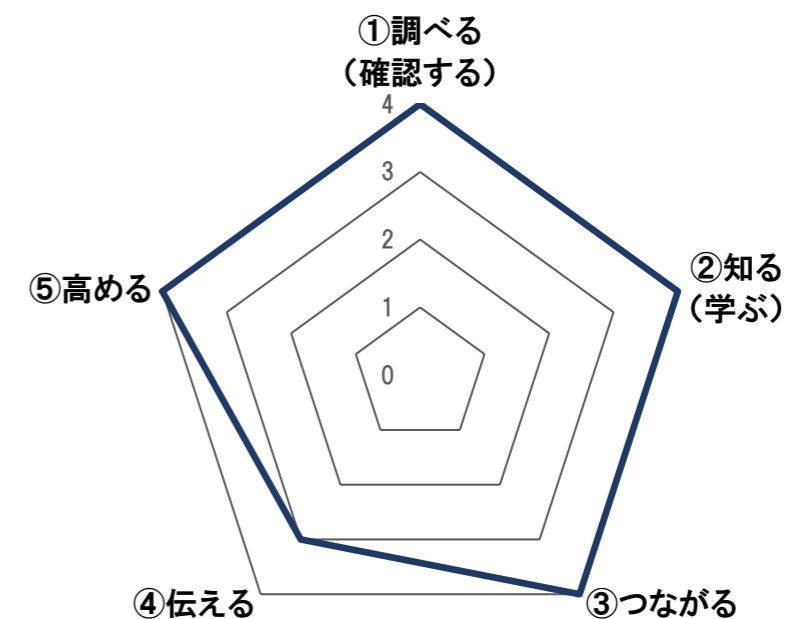
汐平町内会	若葉町内会
富岸町内会	富浜町内会
新生町内会	新生町2丁目町内会
新生北町内会	新生町三丁目町内会
新生町望洋町内会	

実施率 81.8% (9 / 11)

若草小学校区

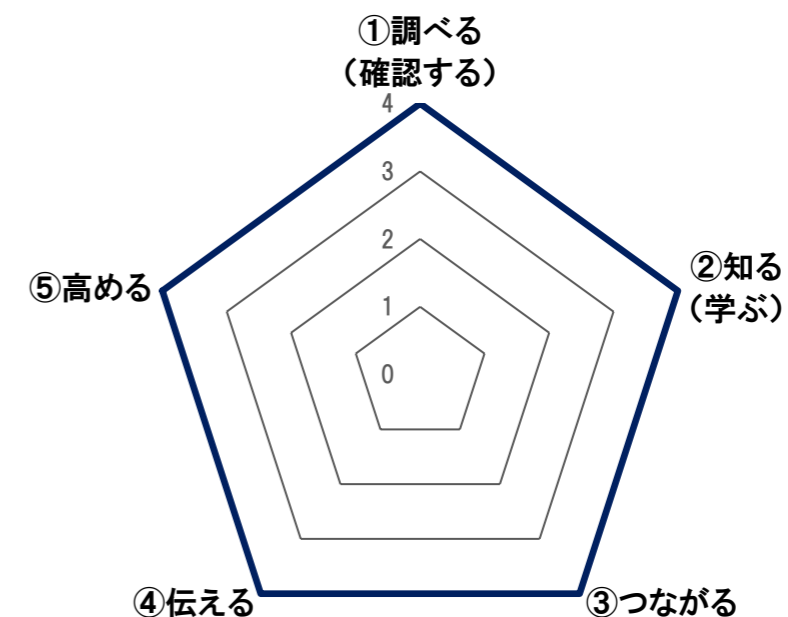
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	校区のきずな推進委員会等での意見交換を通して地域の状況を確認することができた。 また、下校指導によって校区の状況を確認した。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	校区きずな推進委員会の中で、防災や様々な観点から校区内での福祉活動や住民の様子(独居高齢者や障がいなど)を推進委員間で共有し学び合うことが出来た。	4	各種取り組みにおいて校区のニーズをテーマとして設定し、学ぶ機会を設ける。
③つながる	校区のきずな活動を推進するにあたり、引き続き学校関係者、福祉施設職員等幅広い関係者とのつながりを維持することができた。また、長年実施している下校指導・見守りを通して小中学生と日頃からの繋がりが出来ている。	4	これまでの繋がりを維持しつつ、様々な行事や活動を通して新たな繋がりもつっていききたい。
④伝える	各種活動において、きずなの必要性を伝えることが出来た。	3	きずなの概要だけではなく、本質を対外的にどう発信するか検討し実施する。
⑤高める	校区きずな推進委員会や各種会議で、校区内外の取り組みについて共有することで、校区の意識を高めることに寄与している。	4	継続して実施する。



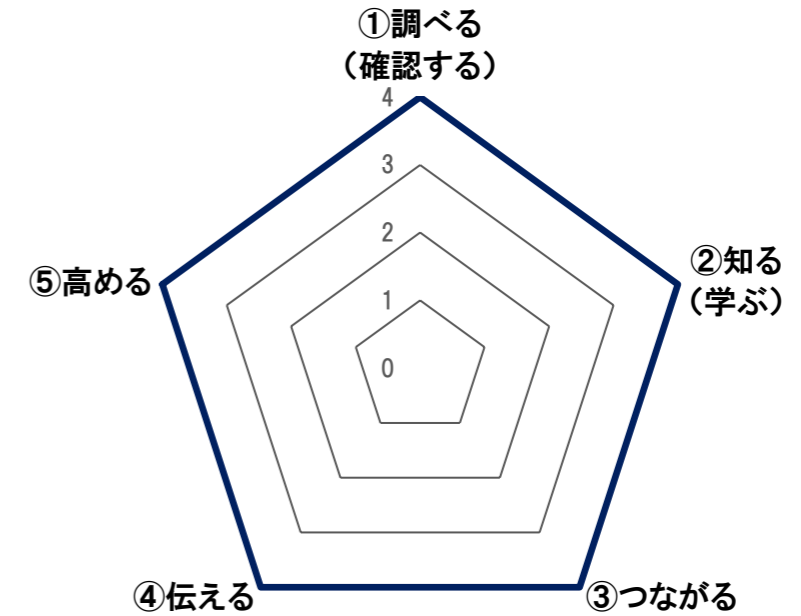
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	きずな安心キットの配付等をきっかけに地域の状況を確認することができている。 また、コロナ禍でも感染症対策をしながら見守りを行っている。	4	継続して実施する。
②知る (学ぶ)	各種会議等において活動の進捗状況等の共有を行い、実情を学ぶことができた。 また、活動を行う際の感染症対策を学ぶことで、徐々に活動を再開し始めてきている。	4	見守り活動などを安心して継続的に実施できるよう日々感染対策方法を学びつつ、活動の工夫をしながら実施していきたい。
③つながる	活動の推進により、地域内の住民同士や専門職とのつながりを持つことができた。 サロンになかなか参加することが出来ない人に対しても小地域活動を通して繋がりが続けられている。	4	まごころレターなどを通して、これまで以上に繋がりが続けられるよう活動していく。
④伝える	活動において、日頃からのつながりを持つことの大切さなどを伝えながら取り組むことができています。	4	継続して実施する。
⑤高める	地域の自助・互助力を高めることにつながっている。	4	継続して実施する。



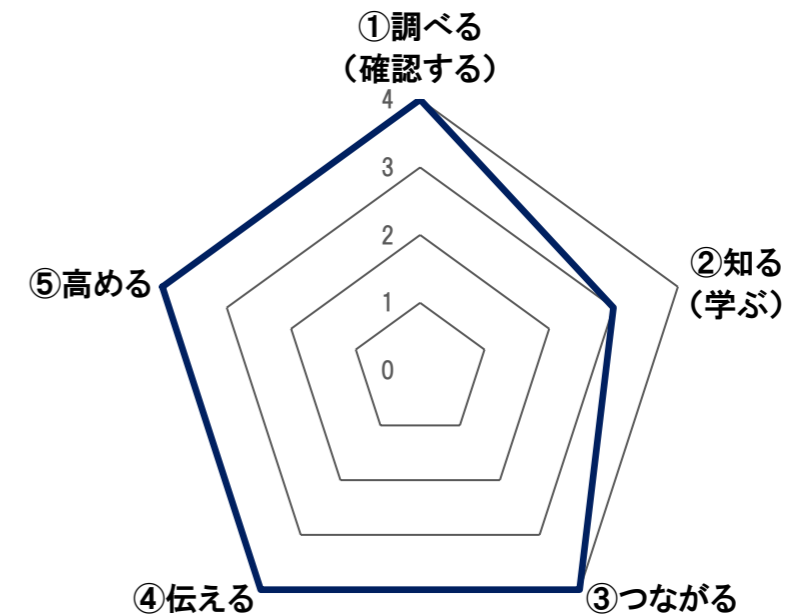
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会の推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	実施すること自体で安否確認や地域の状況を確認する機会となっている。コロナ禍により、サロンを開催できない地域でも定期的に参加者との連絡などを取りながら近況の共有など行っている。	4	コロナ禍でサロンや会食会を十分に実施できるかは不透明だが、その中でも違う形でできる事も考えながら安全に活動していきたい。
②知る (学ぶ)	サロンや会食会において、地域の情報発信を行っている。コロナ禍の影響により、一時はサロンや会食会の実施ができなかったが、地域ごとで感染症対策について学び、コロナ禍でもできる事について考える機会となっている。	4	サロンのような住民同士が繋がりを持てる活動を安心して実施していけるように感染予防や対策方法なども継続して学びながらできることについて考えていきたい。
③つながる	参加者や役員、専門職等がつながる機会となっている。	4	サロンに参加されていた方々との繋がりを絶やさないようできることを考えながら活動していきたい。
④伝える	きずなのPR等を行い、伝える事ができている。	4	継続して実施する。
⑤高める	都度参加者や関わる人たちの意見を聞きながら、より良いものとなるように工夫を凝らしている。コロナ禍でもモチベーションを保ちつつ、これからの活動について前向きに考えることが出来ている。	4	今後も無理なく地域の状況に合わせて検討し、実施していきたい。



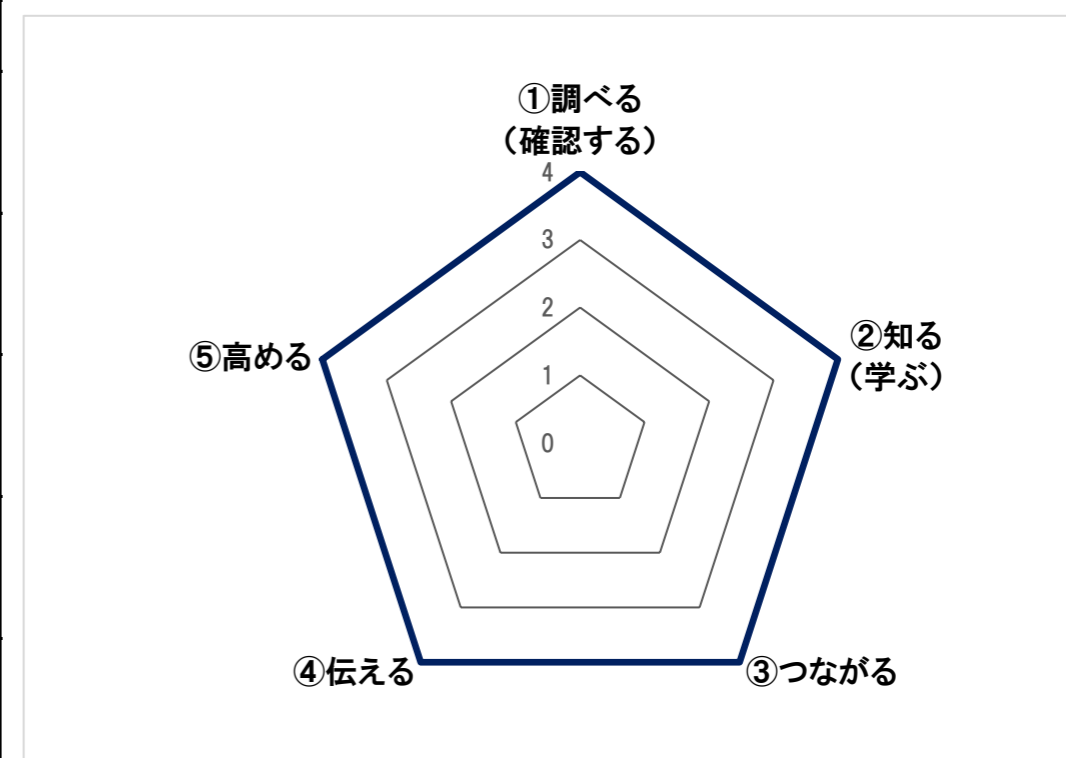
防災活動(普及啓発、要支援者への避難訓練参加促進と避難ルートの周知等)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	訓練の実施により、避難ルートや状況等を確認することが出来ている。	4	地域によっては、避難ルートや避難場所の見直しが必要な場所もあるため、住民や関係機関など見直し・検討していきたい。
②知る (学ぶ)	訓練の実施は、地域住民にとっても良い学びの機会になっている。日頃の見守り活動や住民同士の関わりの中で、要支援者などとの関わりを普段から取るようにしている。	3	普段避難訓練に参加している人を始め、要支援者の方などからの意見を踏まえてお互いが学び合いながら避難する際に必要なことを共有していきたい。
③つながる	一昨年の北海道胆振東部地震時においては、日頃のつながりを活かした迅速な対応を取ることができていたので、継続して住民同士のつながりを意識している。	4	これまでの繋がりを絶やさないう、日頃から行っている様々な地域での活動などを通して、これからも繋がっていききたい。
④伝える	日頃からの備えの大切さを普段のつながりの中で伝えている。	4	継続して実施する。
⑤高める	繰り返し訓練を行ったことで、迅速な避難ができるようになってきている。	4	継続して実施する。



高齢者支援(軽微な生活支援の提供体制の構築)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	ゴミ出し等比較的軽微な支援は、ご近所付き合いの範疇で気にかけてあいながら実施されている。	4	感染対策をしつつ無理のない範疇で気かけながら困り事など無いか状況を確認していきたい。
②知る (学ぶ)	日頃の活動から校区内の課題を把握・共有することができた。	4	継続して実施する。
③つながる	鍵預かりサービス事業の実施により、福祉施設とつながることができている。 また、老人クラブやサークルに参加している方との繋がりも大切にしている。	4	今後も様々なつながりの中で日頃の生活の困り事が無いかアンテナを張っていきたい。
④伝える	日頃の活動を通じて、軽微な支援の必要性などについて伝えている。	4	継続して実施する。
⑤高める	鍵預かりサービス事業の実施により、校区の安心感を高めている。	4	継続して実施する。



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	南 行雄
サブリーダー	伊藤 秀男
サブリーダー	松川 陽子
きずな推進委員	高橋 正子
きずな推進委員	西村 美代子

きずな推進委員	境 幸子
きずな推進委員	星 康彦
きずな推進委員	植田 正子
きずな推進委員	関 國男
きずな推進委員	中島 康晴

校区きずな推進委員	伊藤 修二
校区きずな推進委員	西村 孝夫

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
6月7日	第1回若草小学校校区きずな推進委員会	8名	1)昨年度の校区きずな計画評価について 2)今年度の校区きずな計画の実施内容について
1月23日	第2回若草小学校校区きずな推進委員会	7名	1)若草小学校区住民座談会の内容について 2)校区内における各種事業について
3月13日	若草小学校区住民座談会	—	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

若草町内会	若草第二町内会
美園南町内会	旭ヶ丘町内会
美園町会	桜ヶ丘町会

実施率 85.7% (6 / 7)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあい・いきいきサロン

若草町いきいきサロン	なかよしサロン
いちにのさん	美園町会いきいきサロン
みんなでいきいき	ちょこっと茶屋の会

ふれあい会食会

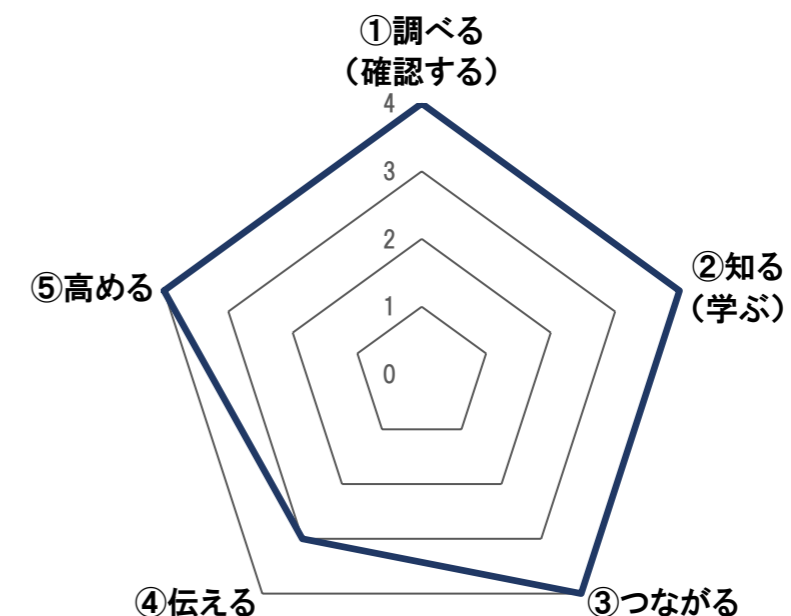
若草町内会	若草第二町内会
美園南町内会	旭ヶ丘町内会
美園町会	美不二町会

実施率 85.7% (6 / 7)

鷺別小学校区

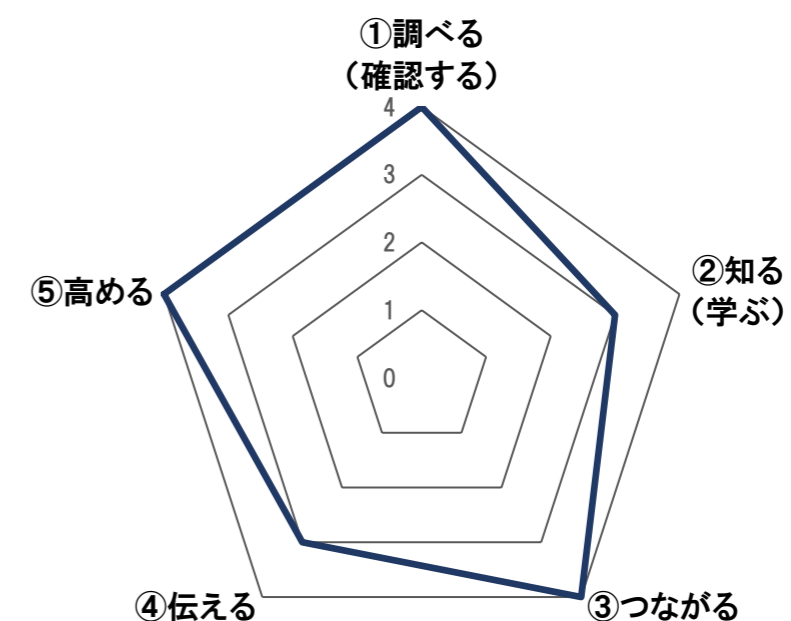
校区活動(校区きずな推進委員会の運営、住民座談会の開催)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	2度校区の委員会を設けることができ、校区の実情の確認や今後のモデル事業実施に向けた検討を進めることができた。	4	今後も定期的な校区委員会の開催を軸に、校区活動の充足を図る。
②知る (学ぶ)	包括けいあいからの地域の高齢者に関する情報提供を踏まえ、地域の実情を学ぶことができた。	4	モデル事業実施に活かすと共に、地域の実情を広く住民とも共有していくことを目指す。
③つながる	毎回の推進委員会への出席率が高く、校区内のつながりを強めることができた。また、恵愛病院との連携の元、鍵預かりサービス事業を開始することができた。	4	モデル事業実施に向け、今後ますますの関係性構築を進めていく。
④伝える	生活支援のモデル事業実施に向け、今後ますます校区内に広きずなの活動を伝えていく必要がある。	3	モデル事業実施に向け、広く住民にきずな活動の趣旨やモデル事業の必要性を伝えていく。
⑤高める	生活支援の事業実施を目指し、委員の想いを高めることができた。	4	より良い校区活動の実践を目指し、今後も熱心な意見交換の場としていく。



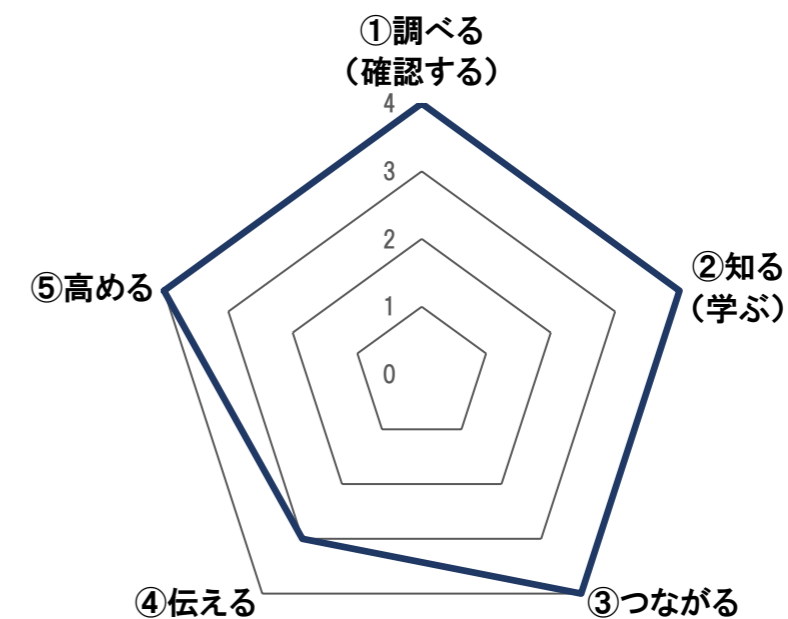
日頃からの見守り・訪問・声かけの推進(小地域ネットワーク活動の充実)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	小地域ネットワーク活動が校区内全町内会で実施され、地域住民の状況把握を行うことができた。	4	情報把握の手段として、きずな安心キットを今後も有効に活用していく。
②知る (学ぶ)	日頃の実践を通し、学びを深めることができた。	3	必要に応じ学びの場も設定していく。
③つながる	小地域ネットワーク活動や各町内会での訪問・見守り活動、鍵預かりサービス事業(利用者2名、事業協力員12名)等の実施により地域につながりを生むことができた。	4	今後も継続していく。
④伝える	対象となる高齢者自身にも事業趣旨を理解してもらうため周知していく必要がある。	3	周知を進め、事業の充実を目指していく。
⑤高める	地域住民の安心とつながりづくりに寄与することができた。	4	今後も継続していく。



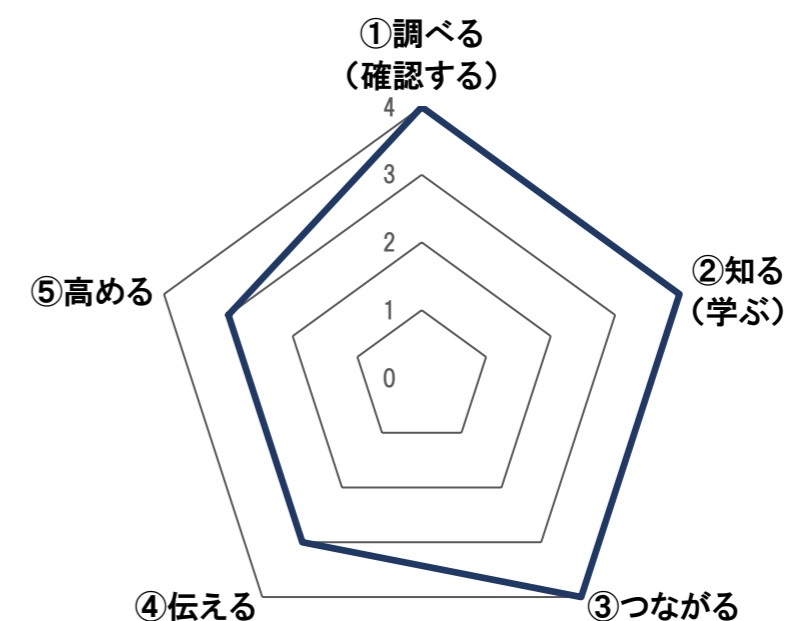
居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい・子育てサロン、ふれあい会食会の推進)

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	サロンやふれあい会食会の実施を通し、参加者や地域の実情を把握することができた。	4	今後も安定した実施を目指す。
②知る (学ぶ)	サロンサポーター連絡会やサロンでの講話等を通し、サロン運営者も参加者も学びを深めることができた。	4	今後も地域のサロン活動が活性化するような学びの機会を設けていく。
③つながる	地域包括支援センター等、関係機関とも連携しながらサロン活動やふれあい会食会を行うことができた。	4	今後も継続して連携を図っていく。
④伝える	住民の居場所やつながりづくりの必要性が地域に浸透してきているが、今後も活動を継続しつつ発信していく必要がある。	3	活動継続とあわせ、地域への周知も続けていく。
⑤高める	ふれあい会食会は校区内の全町内会で実施され、地域のつながりづくりの機会となった。	4	地域の居場所、つながりづくりの場として今後も推進していく。



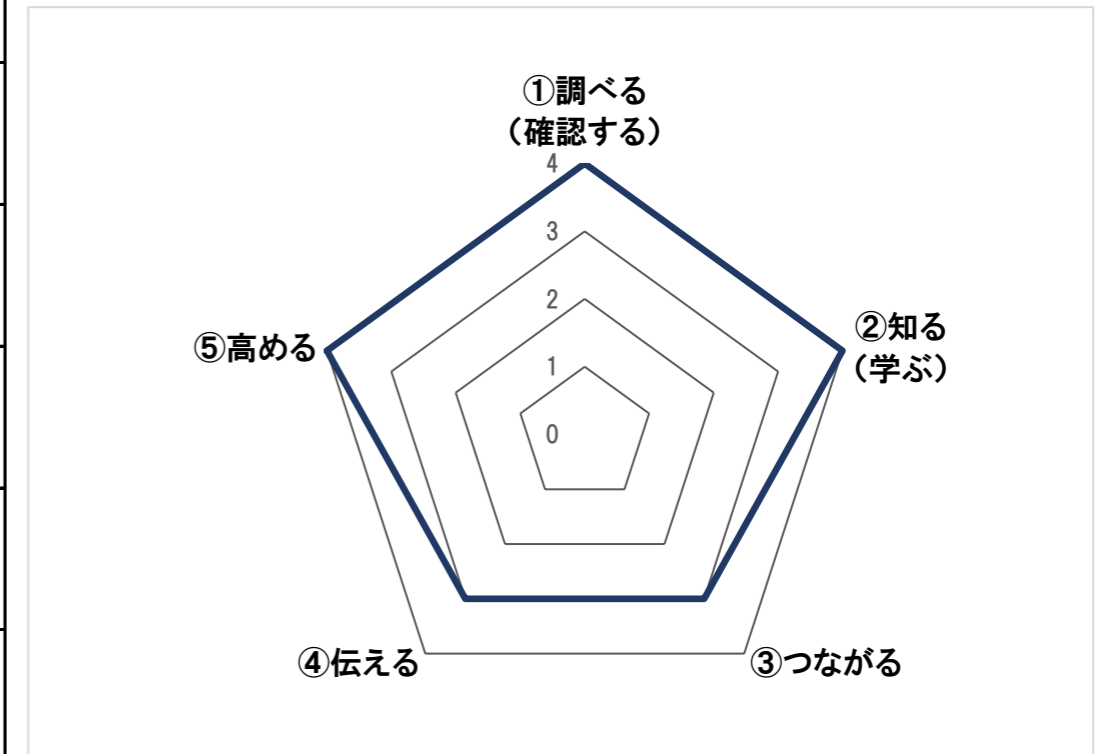
気軽に立ち寄れる地域の拠点づくり

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	地域の住民が集い、実情を把握することのできる場としてしゃべっ茶おを実施することができた。	4	今後も継続した実施を目指す。
②知る (学ぶ)	運営スタッフで定期的な打ち合わせを持ち、拠点の方向性や必要性について理解を深めた。	4	今後も都度の打ち合わせや方向性の共有を図りながら進めていく。
③つながる	地域包括支援センター、民生委員・児童委員、町内会役員、鷺別小学校とも連携し実施することができた。	4	今後も関係機関と連携しながら、より良い活動を目指す。
④伝える	チラシの回覧や住民への声掛け等で周知を図ったが、推進委員内にも浸透していない部分があり、今後も周知が必要。	3	今後も住民や関係機関へ地道な周知を続けていく。
⑤高める	より良い活動となるよう、運営スタッフで協議を重ねながら推進ができた。	3	拠点として目指すべき方向性やより良い活動について今後も検討を進めていく。



住民主体の買い物支援サービスの展開

評価指標	内容	点数	2020年度に向けて
①調べる (確認する)	校区委員会の中で、地域の実情や目指すべき事業の方向性について、熱心な話し合いを持つことができた。	4	地域の実情も踏まえ、今後もモデル事業の実施に向け検討を図っていく。
②知る (学ぶ)	包括けいあいからの情報提供を基に、地域高齢者が抱える課題を踏まえモデル事業検討を進めることができた。	4	モデル事業実施に活かすとともに、地域の実情を広く住民とも共有していくことを目指す。
③つながる	包括けいあいと連携しつつ事業の協議を進められたが、モデル事業の実施に向けては、より校区内の機関や専門職と連携を図っていく必要がある。	3	モデル事業実施に向け、今後ますますの関係性構築を進めていく。
④伝える	モデル事業実施に向け、今後ますます校区内に広く事業の必要性を伝え、共有していく必要がある。	3	モデル事業実施に向け、広く住民に事業の必要性や方向性を伝えていく。
⑤高める	校区委員会での意見交換を通し、モデル事業実施に向け機運を高めることができた。	4	今後も継続し、より良い事業実施を目指す。



校区きずな推進委員会 委員

リーダー	中原 義勝
サブリーダー	竹内 信子
サブリーダー	原田 敬三
サブリーダー	稲葉 雅幸
きずな推進委員	池畠 泰彦
きずな推進委員	雨洗 康江
きずな推進委員	川島 芳治

きずな推進委員	村井 美保子
きずな推進委員	鈴木 信義
きずな推進委員	伊藤 隆夫
きずな推進委員	岡本 政志
きずな推進委員	堀澤 正一
校区きずな推進委員	高橋 学
校区きずな推進委員	室谷 隆

校区きずな推進委員	小林 靖親
校区きずな推進委員	廣瀬 淑子
校区きずな推進委員	柏木 修吉
校区きずな推進委員	荒木 政博
校区きずな推進委員	加藤 征一
校区きずな推進委員	小田 則子

1. 校区活動

日にち	名称	人数	内容
5月20日	第1回鷺別小学校区きずな推進委員会	18名	1)昨年度の校区きずな計画評価について 2)今年度の校区きずな計画(3期4年目)の実施内容について
1月20日	鷺別小学校区リーダー・サブリーダー会議	4名	1)買い物支援モデル事業について
1月29日	第2回鷺別小学校区きずな推進委員会	18名	1)買い物支援事業実施に向けた検討 2)住民座談会について
3月27日	鷺別小学校区のこれからを考える勉強会	—	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2. 日頃からの見守り・訪問・声かけ(小地域ネットワーク活動)

はまなす町内会	ありあけ町内会
はまわし町内会	鷺別1丁目町内会
鷺別2丁目町内会	鷺別3丁目町内会
鷺別町4丁目町内会	鷺別町6丁目町内会
ひまわり町内会	

実施率 100.0% (9 / 9)

3. 居場所・相談・つながりづくりの推進(ふれあい・いきいきサロン、ふれあい会食会)

ふれあい・いきいきサロン

ふれあい健康サロン	おいでやサロン
はまわしの会	4丁目サロン
リビエールサロン鷺楽	あいあいサロン
サロンあじさい	かもめ

ふれあい会食会

はまなす町内会	ありあけ町内会
はまわし町内会	鷺別1丁目町内会
鷺別2丁目町内会	鷺別3丁目町内会
鷺別町4丁目町内会	鷺別町6丁目町内会
ひまわり町内会	

実施率 100.0% (9 / 9)